

VIEWnext

先生方と共に創る 教育情報&オピニオン誌

[ビューネクスト] 高校版

2024

4

April

特集 育成の重要性が高まる資質・能力

読解力とは何か？

表紙の学校
千葉県・銚子市立
銚子高校



今号の掲載校

大阪府・私立高槻中学校・高槻高校 / 埼玉県・私立立教新座中学校・高校 / 神奈川県立横浜国際高校 /
北海道名寄高校 / 北海道・市立札幌藻岩高校 / 山形県・私立東北文教大学山形城北高校 /
愛知県立大府高校 / 京都府・京都市立日吉ヶ丘高校 / 広島県立加計高校

先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

保健室登校を続ける生徒。
教室復帰を勧めるよりも
将棋を指し続けることを
選んだ担任としての2年間

大阪府・私立高槻中学校・高槻高校
磯崎陽介

いそぎ・ようすけ●同校に赴任して12年目。
地理歴史・公民科。大学入学共通テストの世界史の
対策指導を得意とし、休日は模擬試験の問題を解いて
過ごす。教師としてのモットーは「まずは自分が楽しむ」。
生徒とのかかわりでは、目線を合わせることを大切にし、
生徒に寄り添う教師であることを心がけている。



中学2・3年次に担任としてかかわったAさんは、1年生の頃から保健室で過ごすことが多かった男子生徒でした。2年次の5月の連休明けには全く教室に来られなくなり、毎朝保健室に登校するようになりました。

保健室でAさんに声をかけても、「まあ……」「いや……」と元気がない言葉が返ってくるだけ。ただ、彼の趣味である囲碁が話題になった時だけは、少し様子が違いました。将棋が好きで私が「将棋はできる？」と尋ねると、「できます」とのこと。「じゃあ、将棋やろうよ」と誘いました。当然保健室には将棋盤はありませんから、私は「盤と駒を作っておいてね」とAさんに言いました。次の週に保健室に行くと、段ボールで作った駒を並べながらAさんが私に言いました。「先生、やりましょうか」。初めて耳にするAさんの前向きな言葉でした。

それから私は、毎日のように空き時間には保健室に出向き、Aさんと将棋を指しました。次の授業が始まるまでに決着がつかない時は、対局を中断して授業に行き、授業後に保健室に戻りました。そうした私の行動を知った同僚は、将棋をAさんとのコミュニケーションの手段として認めつつも、教室復帰につながる声かけをした方がよいと私に言いました。しかし、私はAさんに「教室においで」とは一度も言いませんでした。それを言ってしまうと彼の気持ちが私から離れていく気がしたのです。たまに家での過ごし方などを聞くこともありましたが、大抵は具体的な返事はなく、受け流されることがほとんどでしたから、対局中は2人とも目の前の将棋に没頭していました。

保健室での対局は3年次になっても続けました。3年次の秋に、いわゆる選択的夫婦別姓制度のニュースが話題になっていました。私は将棋盤に視線を落としたまま、「Aは結婚したら、夫婦別姓にする？」「今、授業で日本国憲法を勉強しているんだよ」と話しかけました。Aさんは珍しく返事をしました。「今度、先生の授業の時だけ、教室に行ってもいいですか？」。思わぬ申し出に驚きましたが、私は平静を装った口調で「いいよ」とだけ返事をしました。すぐ隣にいた養護教諭は、「え！ Aさん、教室に行くの？」と驚きを隠せず、喜んでいました。それからAさんは、週3時間程度ですが、教室に来て授業やLHRに参加するようになりました。

Aさんと何百回対局したか分かりません。トータルの戦績は、4対6の割合で私の負けです。

将棋盤を挟んでAさんと向き合った磯崎先生には、どのような思いや見通しがあったのか。磯崎先生とAさんが保健室で過ごした時間と、Aさんのその後を紹介したウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article27392/>

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

イラスト：カモ

巻頭 先生なら、どうしますか？

保健室登校を続ける生徒。
教室復帰を勧めるよりも将棋を指し続けることを選んだ担任としての2年間
大阪府・私立高槻中学校・高槻高校 磯崎陽介

2 特集

育成の重要性が高まる資質・能力
読解力とは何か？

- 4 Introduction PISA型読解力 早稲田大学教職大学院 教授 田中博之
10 Case1 世界史で育む読解力 埼玉県・私立立教新座中学校・高校
14 Case2 情報で育む読解力 神奈川県立横浜国際高校
18 Case3 探究学習で育む読解力 北海道名寄高校
22 Dialog 社会で求められる読解力
つくば言語技術教育研究所 所長 三森ゆりか × 北海道・市立札幌藻岩高校 対馬光揮

26 発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

26 英語
山形県・私立東北文教大学山形城北高校
Joshua Pako (ジョシュア・パコ)

30 世界史
愛知県立大府高校 野々山 新
お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

34 探究学習 つながり、伴走する教師たち 新連載
京都府・京都市立日吉ヶ丘高校
テーマ 探究×教科学習
お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

36 そうだったのか！ 学習評価
理解度を確認！ 4つのチェックポイント
お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

38 指導変革の軌跡
広島県立加計高校
地域連携
お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

42 大学入試トレンド解説 新連載
拡大が続く総合型選抜・学校推薦型選抜の
実態と支援のポイント
お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

48 Reader's VIEW

https://view-next.benesse.jp/

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ベンダコ 執筆協力／二宮良太 撮影協力／岸 隆子、田中秀和、筒井岳彦、福山 哲、松原 誠、ヤマグチイッキ イラスト協力／カモ、斉藤明子
※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。
※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 © Benesse Corporation 2024

育成の重要性が高まる資質・能力

読解力とは何か？



新年度がスタートしました。今年度は、年次進行で実施されてきた新学習指導要領がいよいよ全面実施となります。その学習指導要領の改訂に影響を与えてきたものの1つに、OECDが進めている国際的な学習到達度に関する調査「PISA」があります。昨年の12月に公表された2022年調査（PISA2022）では、前回の18年調査からOECD加盟国の平均得点が低下した一方で、日本は数学的リテラシー、読解リテラシー、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて平均得点が上昇し、世界トップレベルの結果を残しました。中でも、読解リテラシーが前回の調査から大きく順位を上げたことは、新聞やインターネット等の報道で大きく取り上げられ、注目を集めました。読解力というと、以前は、国語科や英語科で育成する力と捉えられることが少なくなかったかもしれませんが、近年は、どの教科・科目等においても育成すべき力、いわゆる教科横断的に育む資質・能力としての認識が広がっています。では、今求められている読解力とは、どのような力なのでしょうか。本特集では様々な知見や実践を基に、読解力をひも解いてまいります。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 Introduction

PISA型読解力とはどのような力か。どのように育んでいくのか
早稲田大学教職大学院 教授 田中博之

P.8 Column

PISA2022の結果分析 ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター長 小村俊平

P.10 Case1 世界史で育む読解力 埼玉県・私立立教新座中学校・高校

資料を読み解くプロセスを整理し、歴史を解釈・批判する力を育む

P.14 Case2 情報で育む読解力 神奈川県立横浜国際高校

ICTを問題解決のツールとして活用し、情報を多面的に読み取り、伝える力を高める

P.18 Case3 探究学習で育む読解力 北海道名寄高校

「短探究」で身につけたスキルを駆使し、総合探究や教科学習で様々な素材を読み解く

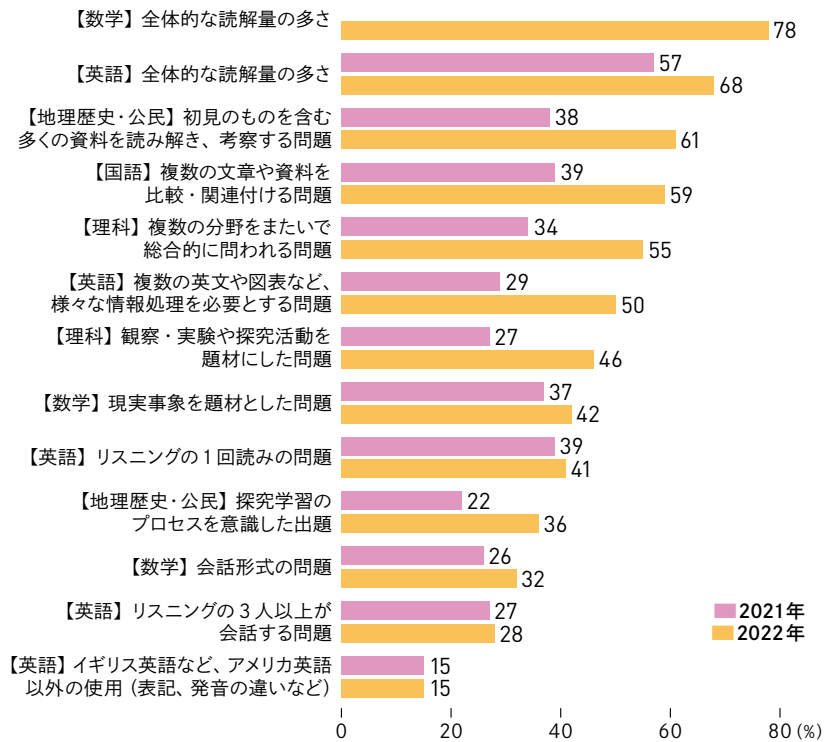
P.22 Dialog

安全・安心な環境で「なぜ」を問い続け、社会で求められる読解力を育む
つくば言語技術教育研究所 所長 三森ゆりか × 北海道・市立札幌藻岩高校 対馬光揮



図1

大学入学共通テストにおいて、今後の対応が必要となりそうな問題や特徴



※数値は、大学入学共通テスト受験者がいると回答した学校(2021年調査は939校、2022年調査は848校)のうち、各項目について「今後の対応が必要となりそう」だと回答した学校の割合。
 ※【数学】全体的な読解量の多さの項目は2022年調査より新設。
 ※ベネッセコーポレーション教育情報センター「2022年度 新課程および教育活動全般に関する調査」

学

校現場でも「読解力」の重要性を強く意識していることを示すデータの1つが、図1だ。問題のページ数や総単語数が多く、様々な資料・題材が取り上げられる大学入学共通テストにおいて、「今後の対応が必要となりそうな問題や特徴」として現場が捉えているものも多くが、いわゆる「読み解き」に関連するものであることが分かる。

一方、PISA2022では、日本の読解力の平均得点は上昇し、順位も回復した(図2)。

以上のように、近年注目が集まる読解力だが、それ

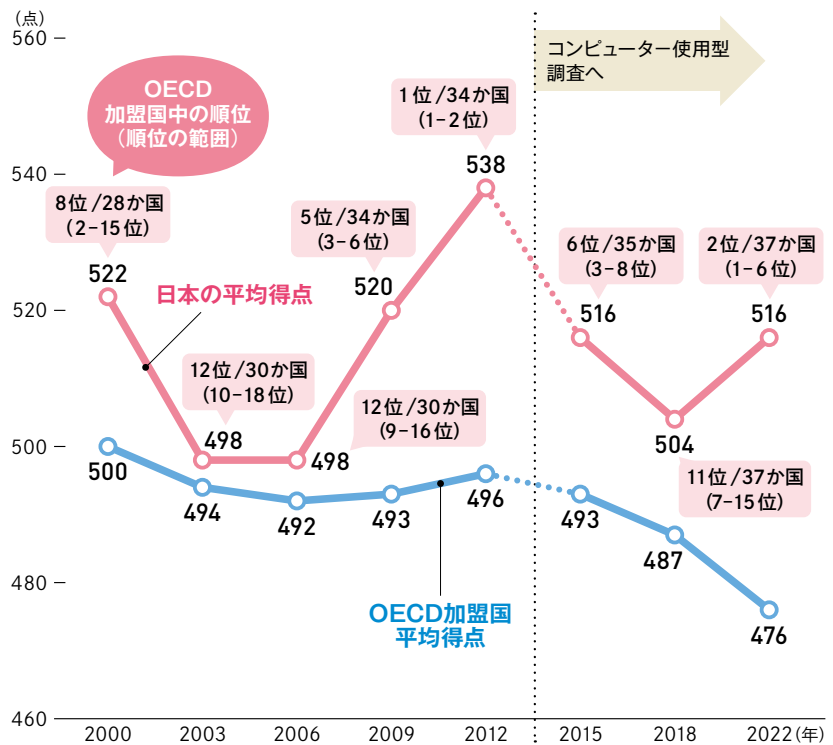
は具体的にどのような力なのだろうか。そしてそれは、どのようにして育成していけばよいのだろうか。

先生方とともに
考えたい「問い」

今後求められる読解力とはどのような力で、それをどのようにして育むのか？

図2

PISAにおける読解力の順位と平均得点の推移



※文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント」を基に編集部で作成。

PISA型読解力とはどのような力か。 どのように育んでいくのか

早稲田大学教職大学院 教授 **田中博之**

21世紀社会を生きる上で必要となる主要な資質・能力の1つとしてOECDが提起したPISA型読解力とは、どのような力なのか。それは日本の学校教育や大学入試に、どのような影響を及ぼしてきたのだろうか。PISA型読解力の定義からその資質・能力を育む指導までを、学力調査のあり方について研究を続けてきた専門家に聞いた。

PISA型読解力は日本の教育改革の軸

学習指導要領の改訂を 方向づけたPISA型読解力

PISAは、OECDが進める国際的な学習到達度調査で、15歳児を対象に読解リテラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について調査します。読解リテラシー（原文は「Reading Literacy）」、すなわゆるPISA型読解力は2003年、OECDが規定した能力概念「キー・コンピテ

ンシー」の枠組みの中で、21世紀社会を生きる上で必要となる主要な資質・能力の1つとして提起されました。以来、PISA型読解力は日本の教育政策に影響を及ぼし続けています。

文部科学省は、PISA型読解力を、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であると、その結果分析の中で記しています

たなか・ひろゆき 大阪教育大学助教授、教授などを経て、2009年度より現職。1996年及び2005年、文部科学省長期在外研究員制度により、ロンドン大学キングズカレッジ教育研究センター客員研究員を、2007年度から18年度まで、文部科学省の全国的な学力調査に関する専門家会議委員を務める。著書・編著書に、『教師のためのChatGPT活用術』（学陽書房）、『高等学校 探究授業の創り方』（学事出版）、『主体的・対話的で深い学び』学習評価の手引き』（教育開発研究所）など。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

情報の取り出しにとどまらず、幅広い力を見る

情報の取り出しから解釈、
熟考・評価までを含む

PISA型読解力とはどのような力なのか、具体的に見ていきましょう(図1)。

PISA型読解力は「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であることは既に述べました。その具体的な能力領域として

(*1)。従来の日本の学校教育で育成してきた読解力は、教科書の素材文を正確かつ詳細に読む力でしたが、PISA型読解力は、実社会に存在する多様な資料やデータを比較・分析し、それによって分かったことを自分なりに解釈・評価し、他者に分かりやすく伝えるという、総合的な学力を示しています。

2004年に発表されたPISA 2003(第2回調査)の結果で、日本は読解力が14位に(第1回8位)、

数学的リテラシーが6位に(第1回1位)に下がりました。いわゆる「PISAショック」を受けて、児童・生徒が課題を設定し、様々な資料やデータを活用しながら問題を解決していくような学びを重視すべく、学習指導要領が改訂されてきました。大学入学共通テスト(以下、共通テスト)が複数の多様な資料や日常生活に関連した題材から必要な情報を読み取ることを求める出題となっていることも、PISA型読解力を踏まえてのことです。

設定されているのが、「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」の3つの項目です。

また、従来の日本の学校教育で育成を目指してきた読解力と比較すると、PISA型読解力の特徴として、「テキストに書かれた情報の取り出しだけでなく、解釈、熟考、評価も含む」「ただ読むだけでなく、テキストを利用して見たり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりする」「テキストの内容だけでなく、構造・形式や表現法も

図1

PISA型読解力とはどのような力か

PISA型読解力を構成する能力領域

- 情報の取り出し
- 解釈
- 熟考・評価

文部科学省の解釈によるPISA型読解力の特徴(従来の読解力との比較)

- 1 テキストに書かれた「情報の取り出し」だけでなく、解釈、熟考、評価も含む
- 2 テキストを読むだけでなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの「活用」も含む
- 3 テキストの内容だけではなく、構造・形式や表現法も、評価すべき対象となる
- 4 テキストには、文学的文章や説明的文章などの「連続型テキスト」だけではなく、図やグラフ、表などの「非連続型テキスト」も含む

※田中教授の提供資料と取材を基に編集部で作成。

評価する」「テキストは文章だけではなく、図やグラフ、表などの非連続型テキストも対象とする」といったことが挙げられます。

PISA型読解力を測る
問題の特徴とは？

次に、PISA型読解力が、どのような問題によって測られるのか、見ていきます(P.6図2)。

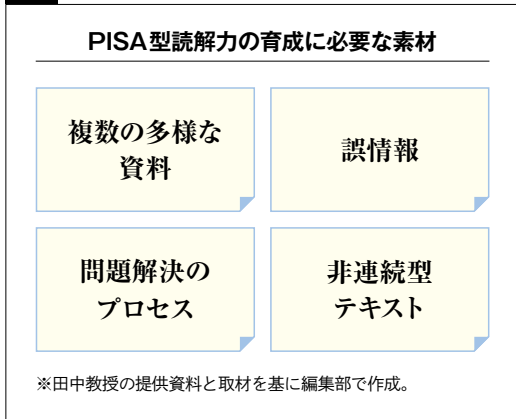
PISAでは、複数の多様な資料を比較・分析して、各資料の要旨を捉え、自分なりのメッセージをつくることのできるかどうか問われます。情報化が進展する21世紀を生きる子どもたちには、文学などを通して人の機微に触れ、感受性を養うとともに、多様で大

量の情報を処理し、それらの要旨を捉え、自分なりのメッセージをつくる力が求められています。そうしたことを踏まえて、PISA、そして共通テストでも、多様な複数の資料を活用する問題が出されているのです。

情報社会では、正確な情報や有用な情報だけでなく、誤情報や意図的につくられた偽情報もあふれています。そのため、複数の情報を比較して、より適切な情報を見抜くことを求める問題もPISAでは出されています。文部科学省が全国の小・中学校の最高学年の全児童・生徒を対象に実施している全国学力・学習状況調査でも、誤情報を探し出して記述させる問題を出しています。その意図はPISAと同じです。

* 1 文部科学省「平成16年度 臨時全国都道府県・指定都市教育委員会 指導主事会議 PISA調査における読解力の定義、特徴等」

図2



またPISAでは、実験や仮説の検証などの過程を再現したテキストの読み取りも求められます。日常生活や学校での学習場面などでの問題解決のプロセスを出題して、複数の教科に関連する知識・技能を活用した読み取りを求めているのです。

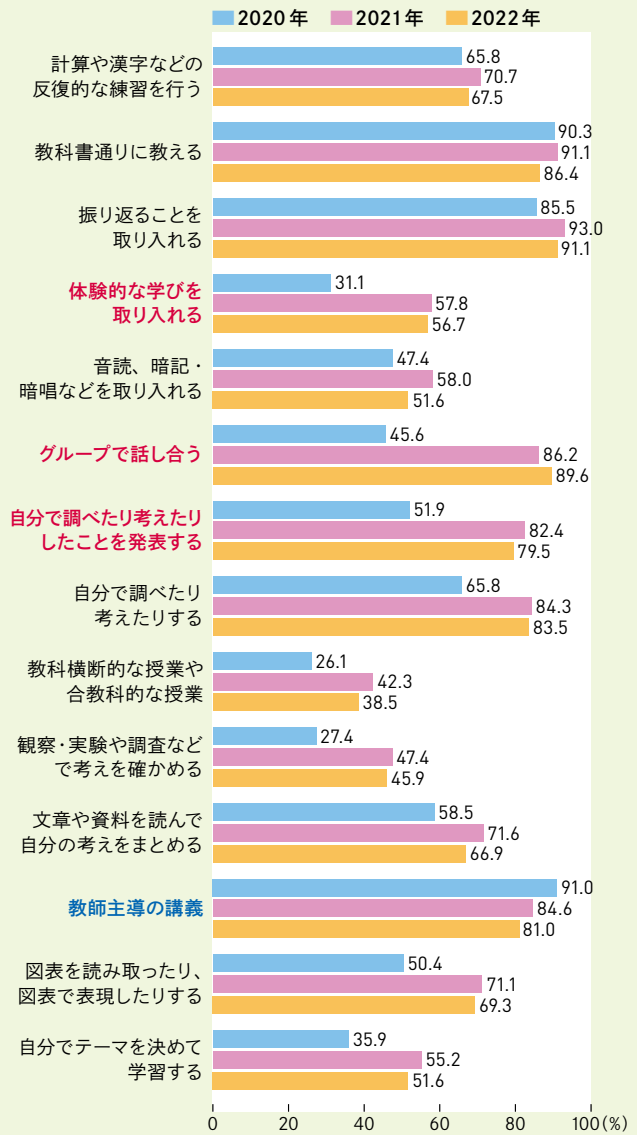
PISAの問題文が長いのは、実験などのリアルな場面を再現するために説明が必要だからであり、長文を読ませること自体が評価目的ではありません。そのことは、共通テストの問題にも言えます。つまり、PISA型読解力が求められるような問題を解けるようになるためには、長い文章をただ読めるようになるだけでは不十分であ

り、問題解決のプロセスなどを実際に経験することが必要です。

PISAでは、図やグラフなど、非連続型テキストが盛り込まれた文章が問題の中に登場します。それも共通テストとの共通点です。既に小・中学校では、国語の教科書にも図やグラフ、地図などの非連続型テキストがふんだんに盛り込まれていますし、小学校高学年からは、図やグラフを用いたレポート作成にも取り組むなど、授業改善が進んでいます(Data)。

Data 中学校の教科の授業方法（経年比較）

中学校では、2020年からの2年間で「教師主導の講義」が減少した(91.0% ⇒ 81.0%)のに対して、「体験的な学びを取り入れる」「グループで話し合う」「自分で調べたり考えたりしたことを発表する」は20%以上増加。



※「よく行っている」+「時々行っている」の%。
 ※ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査2020-2022」

読解力を育む指導のキーワード

探究学習を通じて読解力を育む

PISA型読解力を育成するためには、学校にはどのような指導が求められるのでしょうか。ここでは、「探究学習」「反駁・反証」「アウトプット」という3つの活動をキーワードに考え

ていきます。

探究学習 問題解決のプロセスなどを実験した問題文

を読む際には、主体的に課題に取り組む、その中で問題を分析したり、他者に自分の考えを伝えたりした経験があった方が、問題文の状況を理解しやすいでしょう。定理・公式や法則をただ

読解力とは何か？

覚えることだけが、教育の本義ではありません。身につけた知識・技能を実際に問題解決に役立て、生きて働くものとして習得することこそ重要であり、そうした力を評価するPISAや共通テストでは、実際に問題解決に取り組んだ経験がある生徒が取り組みやすい問題を出しています。

問題解決を経験する場として最適なものは「総合的な探究の時間」ですが、それだけでは十分とは言えません。各教科の授業においても、それぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、生徒自身が課題を設定し、複数の多様な資料を読み解き、自分の考えを表現していくような探究のプロセスを取り入れていくとよいでしょう。

反駁・反証

SNSが身近なコミュニケーションツールとなる中、フェイクニュースにだまされたり、フィッシング詐欺の被害に遭ったりする人は、年齢を問わず少なくありません。誤情報も多く紛れている情報の海の中から正確なものを見抜く力は、まさにこれからの社会を生き抜くために必要な読解力として、すべての人に不可欠です。そうした力を養うためには、授業の中で反駁（他者の意見に対して論じ返すこと）や反証（相手の主張が間違っていることを証

拠によって示すこと）の経験を積むことが重要です。実際、欧米の高校では、レポートを読んで、その中にある誤情報を見つめるだけでなく、それが誤情報と言える理由は何かを生徒同士の議論を通じて明らかにしていくような授業、つまり、正しいことを証明するのではなく、誤りであることを証明するような授業が行われています。

他者と建設的に批判し合うことを恐れているのは、国際社会で多様な価値観を持つ人々と協働し、新しい価値を創出することはできません。ぜひ日々の授業の中でも、反駁や反証に取り組み機会をつくっていただきたいと思えます。生徒同士での反駁、反証が難しいようであれば、最初は教師がわざと誤情報を入れた文章や図を作成し、それらを批判させてもよいでしょう。生成AIを活用すれば、出典元が確かなデータの中にわざと誤情報を盛り込んだテキストを作成することも容易なはず

論理的に書くことを通じて、読解力が高まっていく

アウトプット

PISA型読解力は、書く力と連動しています。私が接している学

生たちを見ても、テキストをしつかり読むことができる学生は、構成が論理的で、誤字・脱字や文法上の間違いが少ないレポートを書くことができます。そして、読む力と書く力のある学生は、ゼミなどでの議論も巧みに行えます。

読解力を高めるには、様々なテキストを読むだけでなく、読んで分かったことや考えたことをまとめたり、そのまとめを他者に伝えることを意識して構成し直し、表現したりするアウトプット活動が欠かせないと私は考えています。高校の授業でも、生徒が作文やレポートなどを書くアウトプットの場

面はたくさんあると思います。そうした教育活動の中で、生徒の主張とその根拠は明確か、正しく、説得力のあるものかなどを見取ることで、書く力とともに読解力が伸びていくでしょう。

PISA型読解力は、アウトプットにつなげてこそ、育成・評価することができますものだと私は考えています。そしてそれは、分かったこと、考えたことをアウトプットして初めて、他者に貢献ができる資質・能力となります。先生方には、ぜひ生徒のアウトプットの機会を充実させていただきたいと思います。



PISA2022の結果分析

2023年12月にPISA2022の結果が発表された。
世界81の国・地域の15歳児が受検した同調査で、日本は好成績を収めた。
その要因をここでは解説する。

前回調査から 読解力の順位が大きく上昇

PISAでは、読解リテラシー、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、コンピューターを使ったテスト形式で、15歳児の学力を測っています。23年に発表されたPISA2022（調査は22年に実施）の結果において、日本は、調査に参加した国・地域中、読解リテラシーが3位（OECD加盟国中

2位）、数学的リテラシーが5位（同1位）、科学的リテラシーが2位（同1位）と、いずれも世界トップレベルを維持しました。特に、前回（調査は18年に実施15位（同11位）だった読解リテラシーが、今回の調査では大きく上昇しました。

なぜ、日本は今回、好成績を収めることができたのでしょうか。しかも、多くの国が前回から平均得点を下げた中で、日本は平均得点を上げました（図1）。その要因の1つとして考えられるのが、

その実現など、学習指導要領を踏まえた授業改善が進んだことや、学校にICT環境が整備され、生徒が端末の使用に慣れたことなども、好成績を収めた要因として考えられます。PISAは、15年の調査からCBT（*2）形式で実施されていますが、ICT環境が学校現場で十分に整っていないかった日本は、コンピューターの操作に不慣れな生徒が、持っている力を発揮し切れなかったのではないかと考えられます。今回はGIGAスクール構想が実現したことで、日本の子どもたちが本来の力を発揮できたものと考えられています。

ICTを活用した 探究学習の充実が重要

新型コロナウイルスの感染拡大のために休校した期間が、日本は他国に比べて短かったことです。コロナ禍の中で日本の先生方が子どもたちの学びを止めないよう努力されたことが、今回の結果に結びついたといえます。また、学校現場で主体的・対話的で深い学

全国の高校の先生方とお話すると、「総合的な探究の時間」や各教科の授業を通じて、PISA型読解力を育むような取り組みが増えていると実感します。例えば、1つの出来事を多角的な観点か

図1（*1）

PISAにおける読解力の順位と平均得点

順位	国 ※（ ）は前回の順位	平均得点 ※（ ）は前回の平均得点
1	アイルランド(4)★	516(518)
2	日本(11)	516(504)
3	韓国(5)	515(514)
4	エストニア(1)	511(523)
5	カナダ(2)★	507(520)
6	アメリカ(9)★	504(505)
7	ニュージーランド(8)★	501(506)
8	オーストラリア(12)★	498(503)
9	イギリス(10)★	494(504)
10	フィンランド(3)	490(520)
OECD加盟国平均		476(487)

※国名の後に「★」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を1つ以上満たしていないことを示す。



【解説者】
ベネッセ教育総合研究所
教育イノベーションセンター長
小村俊平 こむら・しゅんぺい

2015年にスタートした、近未来において子どもたちに求められるコンピテンシーと、その育成につながるカリキュラムや教授法、学習評価などを検討する「OECD Education 2030プロジェクト」に参画。これからの児童・生徒が身につけるべき資質・能力の定義に貢献した。PISAの創始者であり、教育政策の世界的権威であるアンドレアス・シュライヒャーOECD教育・スキル局長兼事務総長教育政策特別顧問の著書『教育のワールドクラスー21世紀の学校システムをつくる』（明石書店）の企画・製作・翻訳にかかわった。

* 1 図1～3は、文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント」を基に編集部で作成。
* 2 Computer Based Testingの略。コンピューター上で実施する試験。

これからの社会を生きる上で必要な読解力を、
学校現場はどのように捉え、育んでいるのだろうか？

ここまで、PISA型読解力とはどのような力で、それをどのように育んでいくのを見てきた。PISA型読解力は、学習指導要領のあり方にも大きな影響を与え

ており、大学入学共通テストで複数の多様な資料が教科を問わず問題文中に提示されているのも、PISA型読解力の育成を重要な目的の1つとしてきた初等中等教育

を踏まえてのものだ。
生徒に必要な資質・能力の1つとして読解力を挙げる教師は少なくない。では、そうした教師が育成を目指す読解力は、どのような力なのだろうか。そしてそれをどのようにして育んでいるのだろうか。学校現場の実践から、読解力を捉えていく。

図2(*1)

ICT活用調査		
「学校でのICTリソースの利用しやすさ」指標		
5位	日本	0.31
OECD加盟国平均		0.00
「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標		
29位	日本	-0.82
OECD加盟国平均		0.01

※ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、学校でのICTリソースが利用しやすいことや、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

ら比較分析したり、学校外の立場が異なる人々と社会課題について対話したりするなど、内容を深く理解・熟考するようなものです。
ただ、課題もあります。PISAではICTの活用に関する調査も行っていますが、日本は「ICTリソースの利用しやすさ」がOECD加盟国の中でも上位であるにもかかわらず、「ICTを用い

図3(*1)

生徒質問調査				
「生徒の学校への所属感」指標				
順位	国	2022年	2018年	
1	オーストリア	0.44	0.40	
2	スイス	0.36	0.30	
3	スペイン	0.27	0.46	
4	ドイツ	0.27	0.28	
5	韓国	0.26	0.28	
6	日本	0.25	0.02	
7	ノルウェー	0.23	0.36	
8	アイスランド	0.16	0.10	
9	ハンガリー	0.14	0.07	
10	デンマーク	0.11	0.21	
OECD加盟国平均		-0.02	0.00	

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、学校への所属感が高いことを意味している。

た探究型の教育の頻度」は最下位という結果になりました(図2)。
ICTは、データを比較・分析したり、多様な他者とながったり、考えたことをまとめて発表したりする際に、とても役立つツールです。ICTを活用する授業を教師が考え、実践することで、生徒が読解力の必要性を身をもって実感したり、身につけた読解力を発揮して学びを

深めたりする場面を増やしていくことができると思います。

ウェルビーイングな学校で 読解力を育む

今回の調査の中で特に私が先生方と共有したいと思ったのが、教育におけるウェルビーイングに関する調査結果です。

同調査では、「学校の1員だと感じている」「他の生徒たちは私をよく思ってくれている」「学校ですぐに友達ができる」などの質問項目を基に、生徒の学校への所属感を分析していますが、日本は前回調査から大きく回復しました(図

3)。不登校の生徒の増加という看過できない現実がありますが、先生方の努力によって生徒の学校への所属感は全体的には高まっているということを、知っていただきたいと思っています。生徒がウェルビーイングでいられる学校だからこそ、間違いを恐れずに自分の意見を表現し、建設的に批判し合う中で、他者と協働するために必要な読解力を生徒は身につけていくことができると考えます。

読解力は、教師から示されたテキストを読み取る時だけに必要な力ではありません。情報があふれる社会で、目的とする情報を的確に選ぶ取るために必要な力であり、大学や社会で主体的に学び続けるために不可欠な力です。日本の学校の先生方には、PISAを通して明らかに、生徒に育まれている読解力をさらに伸ばすためにも、探究学習をこれからも各校で推進していただきたいと思っています。

世界史 で育む読解力

資料を読み解くプロセスを整理し、 歴史を解釈・批判する力を育む

埼玉県・私立立教新座中学校・高校

世界史を担当する立教新座中学校・高校の荒井雅子先生は、PISA型読解力を基に、非連続型テキストなどの読解のプロセスを整理。読解のレベルを徐々に深化させていく。スモールステップの問いにより、歴史を解釈・批判する力の育成を図っている。

PISA型読解力のステップを 援用し、資料を読み解かせる

立教新座中学校・高校の荒井雅子先生は、世界史の授業で、図表などの非連続型テキストを含む様々な資料の読み解きを通して、PISA型読解力と歴史を解釈・批判する力の育成を図っている。

荒井先生がPISA型読解力の育成を意識し始めたきっかけは、2011年、独立行政法人国際協力機構が実施する教師海外研修で、「フォトランゲージ」という学習手法を知ったことだった。フォトランゲージは、写真や絵の中の情報を読み取り、自分の意見を明らかにしていくもので、分かっただけで考えたことを他者と共有しながら

共通理解を図る。

荒井先生は、世界史で扱う図表など、文字化されていないテキストを読み解くためにフォトランゲージは有効だと考えた。だが、その手法を用いて生徒が資料の読み解きに取り組んだところ、文脈や背景を理解した上で自分の考えを述べることができる者もいれば、表面的な情報を追っただけで精いっぱいいる者もいて、生徒ごとに読解の深さは異なった。

「資料を読み解くプロセスを突き詰める中で、PISA型読解力の『情報の取り出し』『解釈』『熟考・評価』のステップに着目しました。そのステップを非連続型テキストの読解に援用することで（図1）、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる『公民とし

図1

PISA型読解力のステップを援用した 非連続型テキストの読解

- ①情報の取り出し テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと
- ②解釈 書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすること
- ③熟考・評価 テキストに書かれたことを知識や考え、経験と結びつけること

※荒井先生の提供資料を基に編集部で作成。

ての資質・能力』の育成につながるような読解力が得られると考えました」
様々な状況の生徒が読解を深められるよう、荒井先生は「スモールステップ」の問いの設定を心がけている。「スモールステップの問いは、『何が書かれているか（情報の取り出し）』

学校概要

設立 1874（明治7）年
形態 全日制／普通科／男子校
生徒数 1学年約320人
2022年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、東京工業大、東京大、一橋大、横浜国立大などに10人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、立教大、早稲田大などに延べ342人が合格。

教諭

荒井雅子

あらい まさこ
同校に赴任して24年目。地理歴史・公民科（世界史）。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

同課題では、古代ギリシアのアテネにおける性別による役割の違いを様々

課題1 「アテネの家族」

【ねらい】

- アテネの男女それぞれの役割を確認してジェンダーバイアスに気づき、その裏づけとなる資料との関係性を探らせる。その過程で、ある時代に期待される性別役割は同時代の社会・文化的背景の影響を受けることを考えさせる。
- 現代の家族のあり方など、自分の知識や経験と結びつけて考えることで、アテネの時代性や価値観を浮かび上がらせるとともに、現代を相対的に捉える視点を養っていく。

問1 資料1には、どのような人々が描かれているか。性別、年齢、服装、想像できる役割や立場など、絵に描かれていること（または描かれていることから想像した情報）を文字化しましょう。

情報の取り出し

〈資料1 壺絵の拡大図〉
アテネの家族が描かれた壺絵。



問2 ①資料2を読んで、描かれている人にはどのような社会的役割、家庭内の役割が期待されていたのか、書きましょう。
②それぞれの情報をグループで共有しましょう。
③君たちが知っている家族の姿と、どこがどのように異なるのか、文章にしてみましょう。

熟考・評価

〈資料2 壺絵の解説文〉

大英博物館による壺絵の解説文を日本語に翻訳した文章。壺に描かれた「年上の男性」「年下の男性」「女性」について、「最年長の男性は、オイコス（家）の幸せに責任を持つ立場にあった」「若い男性は、市民と家族の長としての役割を期待されて教育を受けた」「女性には家庭を経営し、子どもを生むという2つの責任があった」など、様々な記述を紹介。

問3 資料3に示された5つの史料は、資料2に示されているどの性別の、どのような立場の根拠となりそうか、資料2に下線を引きましょう。

情報の取り出し

〈資料3 ギリシア時代のジェンダーに関する史料〉

『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』（大月書店）を参考に、ヘーシオドス『神統記』、アリストテレス『政治学』などから、ギリシア時代のジェンダーに関する記述を抜き出した5つの史料を提示。

問4 次の質問に答えましょう。

歴史の学習は、現在の視点から過去を眺めるものです。今日のテーマに即せば、皆さんは現在の家族観という視点から、ギリシア時代の家族を眺めている、ということになります。つまり、今の我々の思考は、この時代の価値観から離れることができないのです。しかし、自分の思考が時代の価値観に制約されているという可能性を理解することは、その価値観を相対化する助けになります。

さて、ギリシア時代の人々もそんな価値観にとらわれていた、としましょう。それはどのような価値観だったのでしょうか？「ある時代に期待される性別役割は同時代の社会的・文化的背景に影響を受けており、家族の背後にはその時代の価値観が控えている」という意見について、あなたはどの程度賛成（または反対）しますか？ 賛成／反対の立場を明示して、それぞれその根拠を示して意見を述べなさい。

解釈

生徒の記述

この意見に関して、おおむね賛成します。
この時代に生きる男性がなぜこんなにも強い権限を持っていたのかというのは、「生来与えられたものであった」などに見られるとおり先祖代々こうだから、という理由に帰因します。つまり主体性を持って「自分がこうしたいからこうする」よりは共同体の秩序を優先しようとしたからだと考えます。しかし今を生きる僕らは彼らと違って「自分が客観的に見てどのような存在であるか」というのを理解しています。だからこそ、自分の一言で共同体の秩序が...とは考えず、自由に物事をとらえられるのではないでしょう。それは文明が発達している今の世界の人だからこそ分かることではないでしょうか。

※荒井先生の提供資料を基に編集部で作成。

な資料から読み解く中で、ジェンダーバイアスに気づかせ、性別による役割の違いは、その時代の社会的・文化的背景の影響を受けることを考えさせられた。

最初に非連続型テキストからの情報の取り出しとして、複数の人物が描かれたアテネの壺絵から分かることをワークシートに記述させた(問1)。性別や年齢、服装などのほか、それぞれの人物の役割や立場など、想像できることも記述するように生徒に求めた。

続いて、文字資料からの情報の取り出しとして、壺絵の解説文から、性別による社会的役割や家庭内での働きの違いなどが記述された箇所を読み取らせた(問2①②)。ここまでの作業を通して、男性が市民や世帯の長となることを期待されて教育を受けた一方で、女性の役割は家庭内に限定されていたことなど、壺絵から読み取った情報に意味づけをしていった。

次の問い(問2③)では、前の問いまでに読み取ったアテネの性別による役割の違いは、自分の知る家族の姿とどこがどのように異なるのかを比較して文章にした。読解のステップとしては熟考・評価だ。自分の知識や経験を基に家族像を比較し、思考を深めた生徒からは「現代よりも、当時の家族は

精神的なつながりを大事にしていたのではないか。お互いを信頼しているからこそ、内と外の明確な線引きができたのではないか」といった意見が挙がった。

次に、男性観や女性観が表れている当時の著作物など、複数の資料を提示し、同時代の人のまなざしや時代の制約についての理解を深めさせた(問3)。ここでは、最後のまとめに必要な情報を取り出させた。

まとめでは、「ある時代に期待される性別役割は同時代の社会的・文化的背景に影響を受けている」という意見について、根拠に基づいて自分の考えを論述する問いを設定(問4)。読解のステップとしては解釈だ。これまでの学習を踏まえて、当時のアテネの価値観に立脚して思考を深める様子が生徒に見られ、例えば「概ね賛成する。男性の強い権限は『生来与えられたものであった』などの記述に見られる通り、先祖代々のものだった。そうした共同体の秩序を優先したものと考える」といった考えを述べる生徒もいた。

「探究的な問いでは、全面的に賛成、あるいは反対というケースはほとんどありません。そこで『自分はこの部分に賛成する。なぜなら……』と根拠を示すことを求めました。そうしたアウ

トプットを通して、事実に基づいて語る『事実立脚性』、及び主張と根拠の間に矛盾のない『論理整合性』の2つの視点を育てたいと考えています」

「立場性」などの観点から資料を批判的に吟味させる

荒井先生は歴史を解釈・批判する力を育む中で、特に資料を批判的に読む力を育成することを重視している。

「批判的に資料を吟味する視点を持たないと、書かれている情報を疑いなく受け入れることになります。これまでの日本の歴史教育ではあまり力を入れてこなかった批判的に読ませる学習は、生徒が社会で生きていく上で必要な資質・能力を身につけるために、今は不可欠であると捉えています」

批判的に読む姿勢が身につけていない生徒は、短絡的な思考に陥ってしまうケースがある。「世界史探究」の授業で、コルテスによるアステカ征服を扱った際、筆者の異なる2種類の一次史料を提示した。一方の史料にはアステカ王国の王は協力的だったと書かれ、もう一方には非協力的だったと書かれていたが、それを読んで「どちらかが嘘をついている」と発言した生徒がいた。

「その発言を聞いた時、資料を批判的に読む力が生徒に不足していることを痛感しました。同じ出来事であっても、立場の違いによって書き方はいくらでも変わるといって『立場性』をしっかりと理解させる必要があると改めて感じました」

資料を批判的に読むことは、読解のステップの準備段階と位置づけている。資料の立場性を十分に理解できると、その資料の文脈や背景がスムーズに捉えられ、解釈や熟考・評価などがしやすくなるからだ。

資料の一面だけで判断せず、多面的・多角的な解釈を求める

立場性を理解することの重要性を伝える課題が、戦時下の旧制立教中学校をテーマとした「戦時体制化と学生・生徒」だ(課題2)。

同課題で、当時の校長が戦争に対して協力的な考えを述べた学内誌の文章(資料3-1)を読ませたところ、生徒から「校長がこんなことを言うのはおかしい」といった声が上がった一方で、当時の校長の一言一句が軍部に報告されていた事情(資料3-2)を踏まえて、「本当に言いたいことは違っていたのだろう」「立場上、仕方なかっ

読解力とは何か？

たのかもしれない」などと分析する生徒もいた。

「1つの資料の一面だけでなく、複数の資料を基に考えること、さらにもこれらの資料が成立した背景や過程なども捉え、多面的・多角的に解釈することの大切さに気づいた生徒が多かったと感じています」

「何が書かれているか」「あなたはどのよう考えるか」という問いに向き合う中で、着実に生徒のPISA型読解力や歴史を解釈・批判する力は高まってきた。初めは情報の取り出しだけで精いっぱいだった生徒から、「考えが大きく変わった」「自分の中にあつたバイアスに気づいた」といった発言が聞かれることもあつた。

「中高生は社会経験が少ないために、自分の知識や経験の範囲で世の中を捉えてしまいがちです。世界史の学びを通して見方・考え方が広がることで、異なる立場に立脚して物事を考えられるようになっていきます」

3年生になると、長い歴史を俯瞰しながら思考を深める姿も見られる。

例えば、ヨーロッパの列強諸国が周辺国を次々に侵略した歴史的事実に関して、「どうして同時代のヨーロッパの人々はその行動が容認されると思ったのか」という問いを投げかけた際、

課題2 「戦時体制化と学生・生徒」

【ねらい】

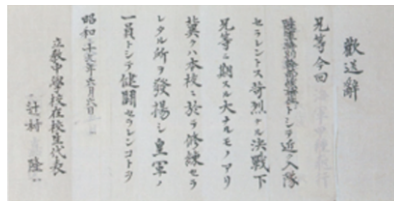
- 太平洋戦争期に学徒動員が進められた背景には、どのような時代の空気や価値観があつたのかを、旧制立教中学校の関連資料などに基づいて考察する。
- 1つの資料だけで判断せず、複数の資料を読み解き、資料の作成者の立場や時代背景を深く理解することで、多面的・多角的に解釈することの大切さに気づかせる。

問1 資料1から、戦争は学校生活にどのような影響を及ぼしていたのか。 **情報の取り出し**

〈資料1 学徒動員の制度的背景〉
学徒動員が制度化されていく経緯を示した年表を提示。

問2 資料2の歓送辞と答辞を読み、現代語訳しなさい。 **情報の取り出し**

〈資料2 戦争と立教中学生〉
旧制立教中学校から陸軍・海軍関係学校などに志願した生徒数の推移を説明。さらに生徒の送辞・答辞を提示。



歓送辞
兄等今陸軍特別幹部候補生トシテ近ク入隊セラレントス苛烈ナル決戦下兄等二期スル大ナルモノアリ冀クハ本校ニ於テ修練セラレタル所ヲ發揚シ皇軍ノ一員トシテ健闘セラレンコトヲ
昭和19年6月6日
立教中学校在校生代表
出典：立教学院展示館第1回企画展資料『戦時下、立教の日々』

問3 資料3-1、3-2から、学校はどのような形で戦争に協力したと考えられるか、考えてみよう。 **解釈**

〈資料3-1 巻頭言「我らも征く」〉
戦時に発行された立教中学校の学内誌より、当時の校長が記した巻頭言を提示。「必ず学国の猛勇心は敵を掃蕩し、醜慮の野望を粉碎するであろう。これは我等の責務であると思う。鍛えよこの身体。磨けこの智、振り興せ大和魂。かくて我等も必ず征く。聖戦完勝のために。」などと強い言葉で生徒を鼓舞した。

〈資料3-2 戦時下の学校〉
戦後に発行された「立教のあゆみ」より、当時の在校生が戦時下を振り返る文章を提示。ミッション・スクールゆえに軍部からにらまれ、校長の一言一句が軍部に報告されていた事情を説明し、「ひとり『立教』だけが『自由の学府』の孤塁を守ることがは不可能であつたらう」「立教の存続に努められた校長先生のご心痛はいかばかりであつたらうか」などと述べた文章。

問4 教育活動が制限される中で、学校はどのように対応したのか/どのように対応せざるを得なかったのか/どう対応すべきだったのか、当時の状況を踏まえた上で、自由と制限の観点から、500字程度で考えなさい。 **熟考・評価**

生徒から「アメリカの西部開拓と共通する考えがあつたのではないかなどと様々な意見が出された。単に覚えて理解したことをアウトプットするのはなく、自分なりの批判や解釈を加え

て相手に分かりやすく論理的に考えを伝える力が育ちつつあるようだ。「複数の資料を読み解きながら各時代について考えるワークを通して生徒の思考を揺さぶり、深められる授業を、

歴史的事実を教える授業とのバランスを取りつつ、今以上に充実させていきたいと思っています」

※荒井先生の提供資料を基に編集部で作成。

情報 で育む読解力

ICTを問題解決のツールとして活用し、 情報を多面的に読み取り、伝える力を高める

神奈川県立横浜国際高校

神奈川県立横浜国際高校の鎌田高徳先生は、担当する情報の授業で、メディアリテラシーのベースとなる資質・能力として、読解力の育成を図っている。授業では、情報・データなどを読み解いた結果を生徒同士で相互評価する機会を設けるほか、授業以外の場面でも発揮することができてこそ読解力が身についたと言えると考え、定期考査の問題を工夫している。

メディアが多様化し、 情報の読解が一層重要に

情報の授業で育成が図られているメディアリテラシー。神奈川県立横浜国際高校の情報科の鎌田高徳先生は、メディアリテラシーのベースとなる資質・能力として、読解力の育成に力を入れている。

「メディアリテラシーの定義は様々ですが、ベースとなるのは文字や画像、音などの情報の信憑性を確認する力と、相手に情報を正しく伝えられる表現力です。つまり、情報を適切に読み取って自分なりに解釈し、活用・表現できることが重要であり、それは読解力そのものだと考えています」

加えて鎌田先生は、「ICTの発展

に伴い、メディアが多様化している今、情報において読解力を育む必要性は高まっている」と語る。例えば、大半の生徒がスマートフォンを所有し、様々なアプリケーションを利用している。

その多くが、利用者の関心が高い情報を優先的に表示し、関心が低い情報は遮断するシステムを採用しているが、自分が関心を持つ情報だけに囲まれ、多様な情報から隔離されやすい「フィルターバブル」の状態にあると、偏った情報に囲まれていても、その信憑性に疑問を覚えずらくなる。

「フィルターバブルの状態にあると、接する情報量が増えているにもかかわらず、視野はかえって狭まっていきます。そうならないよう、様々なメディアが発信する情報を俯瞰したり、多面

的・客観的に捉えたりする読解力を育成することがとても重要なのです」

読み取ったデータを解釈し、 他者に伝える、生徒主体の活動

そうした課題意識から、鎌田先生は授業において、探究的な学びを通じた読解力の育成を図っている。

授業の基本的な流れは次の通り。冒頭の約10分間で、鎌田先生は本時の目標と課題の内容を伝え、課題に取り組み中で活用することになる知識・技能について、最低限の解説を行う。その後で生徒は、教科書や資料などを読み取り、インターネットで調べたり、生徒同士で話し合いをしたりしながら、課題に取り組む。



管理運営グループ
鎌田高徳
かまた・たかねり
同校に赴任して3年目。情報科。

学校概要

設立 2008（平成20）年
形態 全日制/国際科/共学
生徒数 1学年約180人
2022年度卒業生進路実績 国公立大は、千葉大、東京外国語大、横浜国立大、国際教養大、東京都立大、横浜市立大などに28人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ234人が合格。海外大進学22人。

読解力とは何か？

らりと変わります。生徒は、自分の手で物語の一面を恣意的に切り取って記事を作成し、設定を効果的に伝えるための見出しを立てる活動を通じて、同じ事柄でも全く異なる見せ方にすることができる仕組みを実感したと思います。多くの生徒が課題の振り返りに、『メディアは怖い』などと書いていました。情報は意図を持って発信されるものであり、それをうのみにする危険性に気づいていました」

情報の授業で高めた読解力をほかの場面で生かせるように

鎌田先生は、生徒が情報の授業で学習した内容を、ほかの教科・科目の授業や日常生活で応用することができるようになることを目指している。例えば、「見出しの立て方を工夫して探究学習の『まとめ』のスライドを作る」「授業で学んだ分析方法は、地理の調べ学習でも使える」などと、情報の授業で育んだ力をほかの場面で発揮することができる例を伝えている。

「教科書通りにプログラミングできるだけでは、意味がありません。大切なのは、学んだ知識・技能を身近な事象や自分が知っているほかの概念に結びつけて活用することです」

そのための場面の1つとして、定期考査の「思考・判断・表現」を測る問題では、授業の学習内容を踏まえつつ、初見の問題を出している。例えば、プログラミングの単元の授業では、ゲームでアイテムが当たる確率をシミュレーションする方法を学んだ。そこで、定期考査では、授業で学んだプログラミングによるシミュレーションを活用できる場面として、文化祭で模擬店を出す際に釣銭として用意する500円玉の数を算出するという設定の問題を出した。

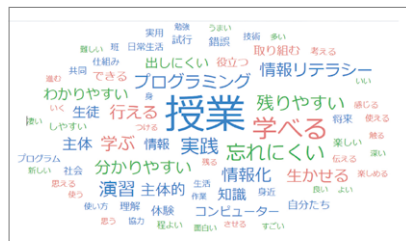
以上のような授業や定期考査を行ってきた結果、生徒対象の授業アンケートでは、「調べ学習の際、情報の信頼性を調べるようになった」「歴史の資料を客観的に検証することができた」「情報で学んだ相関係数を、数学のデータの分野と結びつけて考えることができた」「総合的な探究の時間でテキストマイニングツールを活用した」といったコメントが書かれていた。多くの生徒が、情報の授業で学んだ情報・データを読み解くためのマインドやスキルを、様々な場面で発揮している様子が見えてくる。

鎌田先生は、そうした生徒のコメントをテキストマイニングツールで分析し、ChatGPTで要約を作成。自身の

生徒対象の授業アンケートの結果を、生徒にフィードバックした内容（例）

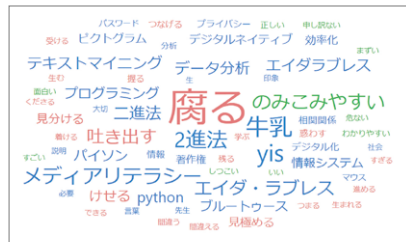
生徒対象の授業アンケートに書かれたコメントについてのワードクラウドを作成。また、Chat GPTにコメントを要約させて、そこに含まれていなかった生徒の気づきや指摘を鎌田先生が加えて、生徒にフィードバックしている。教師自身がICT任せにせず、自分で読解することで、情報をうのみにしない大切さを生徒に伝えている。

●皆さんにとって、よい「情報の授業」とはどんな授業ですか



皆さんにとって、よい「情報の授業」とは、自分で考えられる授業や社会で使える能力を育むような授業、分かりやすく簡単に説明される授業、楽しく身近に情報を感じられる授業などが挙げられます。生活に役立つ内容や実践を通じて学べる授業が好評であり、生徒が主体的に行動できる授業や体験型で楽しい授業が重視されています。また、将来役立つ内容や情報の使い方を学ぶだけでなく、実践することができる授業が好評を得ています。

●情報の授業で印象に残っている言葉



情報の授業を受けて印象に残っている言葉は「腐った牛乳」です。この言葉は、メディアリテラシーを身につける際に使われ、間違った情報を見極める力を持つことの重要性を表しています。また、パスワードの重要性やプログラミングのアイデア発想法なども学びました。学習のポイントは、情報の正確性を見極める力や効率的な情報処理能力を身につけることです。

* 学校資料と取材を基に編集部で作成。

授業改善に生かすとともに、生徒にもフィードバックして、それぞれの気づきや授業の改善点を生徒と共有している（図）。

情報やメディアを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、その予測は難しいが、変化に柔軟に対応していきたいと、鎌田先生は抱負を語る。

「現行の学習指導要領では、『コンテンツ』と例えば『ウェブサイト全般』を指していますが、今やSNSが主流です。そのように変化が激しい情報環境だからこそ、私自身も生徒とともに学び、これからの社会を生きる上で必要な読解力を高めていきたいと考えています」

探究学習 で育む読解力

「短探究」で身につけたスキルを駆使し、
総合探究や教科学習で様々な素材を読み解く
北海道名寄高校

北海道名寄高校では、1年次1学期の「総合的な探究の時間」で探究のサイクルを学ぶ「短探究」の活動において、「多面的・多角的に見る」「比較する」などの「考えるための技法」の活用を通じて読解力を育成している。培われた読解力は、その後の探究学習や教科学習でも生かされる重要な資質・能力となっている。

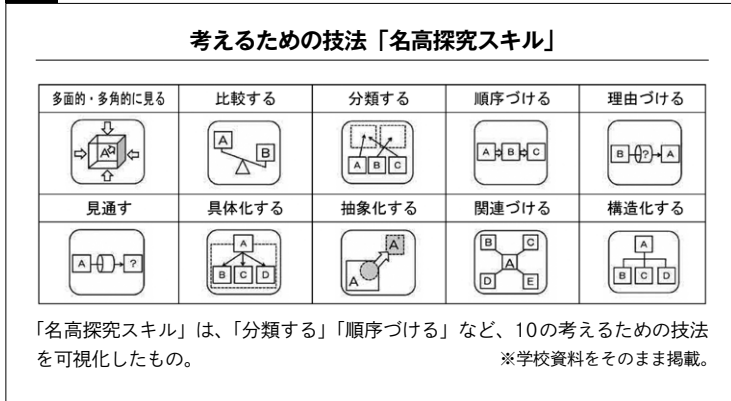
全教科・科目が関連する 総合探究で読解力を育む

北海道名寄高校は2020年度から3年間、北海道教育庁「未来を切り拓く資質・能力を育む高校教育推進事業」の指定を受け、研究テーマの1つとして「探究的思考ツールの開発」に取り組んだ。具体的には、学習指導要領に示された「多面的・多角的に見る」「比較する」など、10の考えるための技法をアイコン化し、汎用的スキル「名高探究スキル」(図1。以下、探究スキル)として、教科学習や「総合的な探究の時間」(以下、総合探究)で活用した。教務部部長の濱中聡志先生は、そのねらいを次のように語る。

「本校の生徒は素直で真面目ですが、

勉強は『暗記する』ことだと捉える傾向があり、『考える』姿勢と、『考える』材料となる様々な情報を『読解する』力があまり身につけていません。そこで、『考え、読解する』とは具体的にどうすることなのか分かる『考えるための技法』をアイコン化し、それらのスキルの習得を支援しました。導入当初は1年次の早い段階で、探究スキルを各教科・科目の授業の中で説明。問題を出す際は、どの探究スキルを使えばよいのかを提示した。しかし、次第に探究スキルありきで授業づくりをする教師が少なからず見られるようになったため、22年度から、各教科・科目の授業で探究スキルを活用することは任意とした。そして、1年次1学期の総合探究で、「短探究」とい

図1



学校概要

設立 1922 (大正11)年
形態 全日制/普通科・情報技術科/共学
生徒数 1学年約200人
2022年度卒業生進路実績 国公立大は、帯広畜産大、北海道教育大、北海道大、岩手大、山形大、旭川市立大、釧路公立大、名寄市立大などに27人が合格。私立大は、札幌大、北海道医療大、國學院大、大東文化大などに延べ63人が合格。短大・専門学校進学40人。就職23人。



越石健太
探究推進部部长
こしし・けんた
同校に赴任して2年目。理科(物理)。



濱中聡志
教務部部長
はまなか・さとし
同校に赴任して4年目。地理(歴史・公民科(地理))。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

「全教科・科目が関連する総合探究において探究スキルを活用する活動を行い、1年生全員が探究スキルを学べるようにしました。そして、その活動内容を教師間で共有し、担当の教科・科目の授業で活用できる探究スキルがあれば取り入れてもらうこととしました。総合探究と教科学習が連携することで、探究スキルの定着と、読解力や思考力の育成を目指しました（P.21に教科学習における実践を掲載）」

「短探究」は、探究のサイクルと探究で求められるスキルの習得を目的に行っている（下図）。生徒は3〜4人のチームになり、身近なテーマで探究のサイクルを回す。1テーマを4時間とし、1学期で4テーマに取り組み。

例えば、「短探究Ⅱ 紙飛行機の『飛距離』と『滞空時間』を分析しよう」では、紙の大きさ・種類が異なる6種類の紙で紙飛行機を作って飛ばし、「紙の大きさ」「紙の種類」「重心の位置」と「飛距離」「滞空時間」との関係进行分析する。分析は、自分たちのチームだけでなく、全チームのデータを使用

総合探究 1年次「短探究」4時間×4サイクルの探究学習

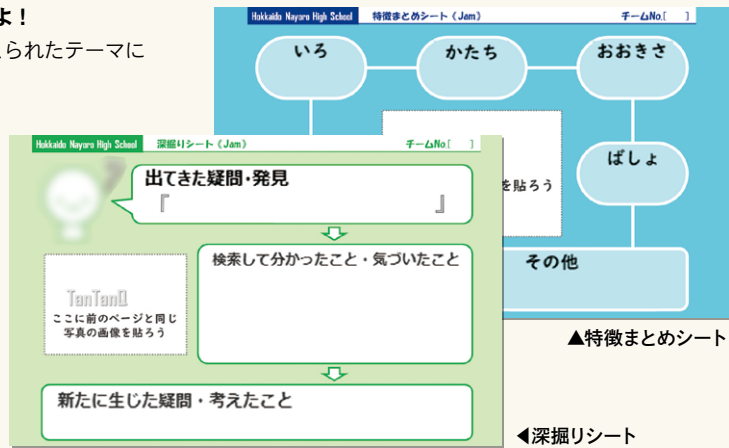
【ねらい】

探究のサイクル（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を、素材・テーマを変えて短い期間で複数回経験することで、探究のサイクルと探究で求められるスキルを学ぶ。

概要 • 1テーマ4時間、4テーマ実施 • クラス混合の3〜4人でチームを組んで活動 • チームはテーマごとに編成

短探究Ⅰ 校内にある「〇〇〇」にフォーカスせよ！

- ①校内を探索し、「扉」「窓」など、チームに与えられたテーマに沿った写真を撮影。
- ②撮影した写真1種類につき「特徴まとめシート」を1枚作成（1チーム5〜10枚）。
- ③②のシートの内容を比較し、違いを記録用紙にまとめる。
- ④③の結果を踏まえて、疑問に思ったことや発見したことをインターネットで調べて「深掘りシート」にまとめる。
- ⑤調べて分かったこと、さらに疑問に思ったことなどを、1人ずつワークシートにまとめる。
- ⑥テーマが異なるチームの4人で新しいグループをつくり、⑤でまとめた内容を発表し合う。



短探究Ⅱ 紙飛行機の「飛距離」と「滞空時間」を分析しよう

- ①チームごとに、サイズや種類が異なる6種類の紙で、紙飛行機を作る（折り方は全チームで統一）。
- ②チーム内で、「紙飛行機を飛ばす人」「距離を測定する人」「滞空時間を測る人」「記録する人」の担当者を決める。
- ③紙飛行機を飛ばして、飛距離と滞空時間のデータを取る。
- ④③の結果を学年共有のオンラインシートに入力する。
- ⑤「紙の大きさ」「紙の種類」「重心の位置」の3項目で、飛距離と滞空時間がそれぞれ長かった順に6種類を並べる。
- ⑥⑤の結果を見て、気づきや疑問と、実験をしてよかった点や改善点を「考察＆分析シート」に記入する。
- ⑦各チームの代表者1人が発表する。



短探究Ⅲ アンケート調査をしよう（手順は略）

短探究Ⅳ デベートに挑戦しよう（手順は略）

* 学校資料を基に編集部で作成。

して行う。分析の結果を踏まえて考察し、その要点をまとめて発表する。

「ワークシートには、『紙の大きさ』『紙の種類』『重心の位置』と、分析の視点が示してあり、データの読み解きにおいて、『比較』『分類』『順序づけ』などの探究スキルを必ず使うようになっていきます。また、活動の最後には発表を行い、自分の考えをアウトプットする場を設けています。それらの過程で読解力も育成されると考えています」(越石先生)

考えを表現する場があったからこそ読解力は向上する

1年次2学期に行う「個人探究」では、マインドマップの作成や調べ学習などを通じて自分の興味・関心を見だし、探究したい内容をまとめた企画書を作成する(右下図)。

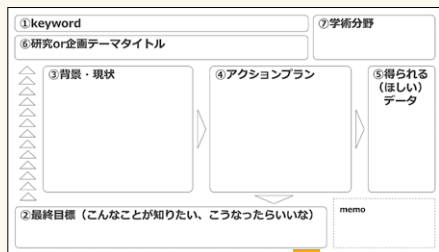
「教師は、マインドマップを見ながら『○○と○○はなぜつながるの?』などと生徒に問いかけます。生徒は、自分の興味・関心を多面的・多角的に見たり、関連づけをし直したりすることで、探究したい内容を掘り下げ、それを教師に説明して助言をもらうやり取りを何度もします。興味・関心の整理とアウトプットを繰り返すことで、

総合探究 1年次「個人探究」企画書の作成

【ねらい】

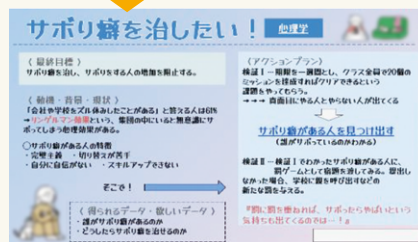
複数の活動を通じて、自分の興味・関心を深め、日常生活や社会に目を向けた上で、自分が探究したい課題を設定し、それに取り組むための企画書を作成する。

- ①各自が関心のあるものの写真を撮影し、それについて感じた疑問をグループで共有する。
- ②グループのメンバーは、疑問を解決するためのアドバイスを出し合う。
- ③疑問について自分で調べたことや②での助言などを踏まえてマインドマップを作成する。
- ④マインドマップを基に担当教師とやり取りしながら、探究したいことを企画書にまとめる。



◀企画書の見本発表時に伝えたい項目をまとめて示した。

▶生徒が作成した企画書
生徒は企画書のフォーマットを活用しながら、自分で工夫して表現していた。



* 学校資料と取材を基に編集部で作成。

自己分析する力や他者に伝える力も養われていきます」(越石先生)

そうして完成した企画書を、生徒は1年生全員分を読み、3年次1学期に行うプレゼンテーション大会まで自分が探究したいテーマを選ぶ。そして、同じテーマを選んだ生徒同士でチームを組み、約1年半かけて探究学習に取り組む。

約1年半の間には、中間発表が半々に1回程度設けられている。探究の途中経過を企画書にまとめて発表し、大

学教員や地域住民から助言を受けたり

「写真」、後輩と質疑応答を行ったりする。企画書の形式に見本はあるが、生徒は発表を繰り返すうちに見本をアレンジするようになるという。

探究学習で身につけた読解の技法を教科学習でも活用

教科学習では、総合探究で身につけた探究スキルを基に、様々な情報を読解する活動を行っている。越石先生は担当する物理の授業で、物理現象を説明した文章を読み解くための方法の1つとして、絵や図を描くことを勧めている。

「文章を読み、書かれている状況を絵にしたり、図に書き込んだりすることで、問題の解答などに必要な情報を



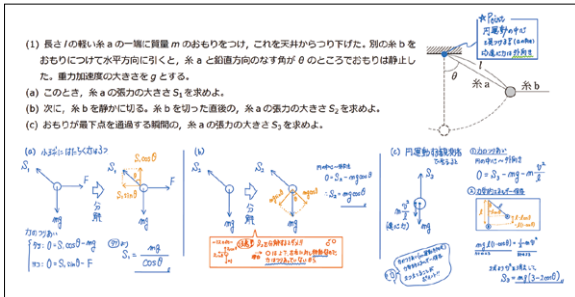
写真 生徒が地域住民に探究学習の内容を説明する「地域ゼミ」を、1・2年次合同で実施。生徒は地域住民の助言から得た新たな視点や客観的な視点を、その後の探究学習に生かす。地域コーディネーターを通じて地域住民に協力を依頼している。

読解力とは何か？

図2

物理 絵や図を描くことで、文章から物理現象を読み取る

生徒が描いた物理現象の図。「物理が得意な生徒ほど、絵や図には様々なことが書き込まれています」(越石先生)



* 学校資料と取材を基に編集部で作成。

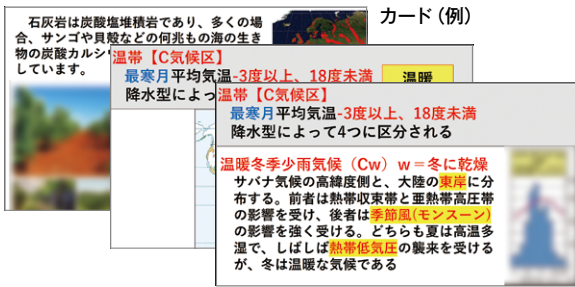
図3

地理総合 授業で行った探究学習と定期考査を連動

『温帯の気候と人々の生活』での探究学習

● 授業

- ①グループ 資料集やインターネットで調べながら、24枚のカードに書かれた内容の因果関係を見つけ、構造化する。
- ②個別 ①を踏まえて、疑問や気づきなどを書き出す。
- ③グループ 各メンバーが疑問を出し合い、グループの探究テーマを設定する。
- ④グループ 設定したテーマを探究し、結果をまとめて発表する。



カードには、気候、地理、農業、食文化などが書かれている。いずれも教科書や資料集を基に、濱中先生が作成した。

● 定期考査

定期考査では、初見の資料のカードを4枚提示し、日本に飛来する黄砂と砂漠化の進捗との関係を考察する記述式問題を出した。

* 学校資料と取材を基に編集部で作成。

文章から取り出すことができます(図2)。(越石先生)

濱中先生は担当する2年次の「地理総合」で、「温帯の気候と人々の生活」をテーマに探究学習を行った(図3)。その活動は、温帯の気候や文化などの特徴が書かれた24枚のカードを提示し、それらの因果関係を構造化した上で、グループ内で疑問を出し合って探究テーマを設定し、調べ学習を行うという内容だ。

「どの探究スキルが使えるかは説明しませんが、生徒はカードの情報

報を比較や分類、構造化して、カードの情報から温帯の気候と文化の関係などを考察していたことから、総合探究での学びが生きていたと感じました。その活動を踏まえて定期考査では、黄砂の仕組みや砂漠地域の文化・産業について書かれた初見の4枚のカードを基に、黄砂と砂漠化の進捗との関係を考察する記述式問題を出しました。多くの生徒が4枚のカードの関係を読み解き、自分の考察が書いていました」(濱中先生)

23年度は、『歴史総合』と『地理総合』の合同授業として、総合探究のチームで修学旅行の訪問地の地理や歴史を調べて発表する活動を行った。

『歴史総合』の担当教師と連携し、学校行事と教科学習、総合探究のコロナ授業を行いました。与えられたテーマについて自分たちで問いを設定する活動とし、総合探究での学びがほかの場面でも生きていることに気づけるようにしました。総合探究のチームで取り組んだこともあり、総合探究での学びを意識しやすかったようです。生徒は発表のスライドをまとめる際に探究スキ

ルを生かして訪問地の歴史を読み解くなど、総合探究での学びの成果を随所に発揮していました」(濱中先生)

普通科と専門科の混合クラスで読解力のさらなる向上を期待

今後の課題は、探究スキルの習得度の評価だ。

「知識・技能は定期考査で、思考・判断・表現は課題などの成果物で評価していますが、探究スキルが身についたかどうかの評価は容易ではありません。全教科・科目が関連する総合探究において探究スキルを評価する方法を検討し、生徒に考える姿勢や考えるための材料を読み解く力を育むフィードバックをしていきたいと考えています」(越石先生)

23年度、同校は北海道名寄産業高校と統合し、情報技術科が設置された。ホームルームのクラスは普通科と情報技術科の混合とし、総合探究や公共、保健体育などの授業は両科の生徒が一緒に受けるようにした。多様な考え方や専門性を持つ生徒と一緒に学ぶことで、多面的・多角的、また客観的に物事を捉える機会が増え、それが読解力のさらなる向上につながるものと期待している。

安全・安心な環境で「なぜ」を問い続け、 社会で求められる読解力を育む

つくば言語技術教育研究所 所長

三森ゆりか

北海道・市立札幌藻岩高校

對馬光揮

社会ではどのような読解力が求められるのだろうか。そしてそれは学校という場で、

どのようにして育むことができるのだろうか。海外の国語教育に精通し、日本人の言語技術の向上のために活動する識者と、独自の指導法で読解力の育成に取り組む国語科教師が語り合った。

「言葉の力」の差を生み出す 日本と欧米の国語教育の違い

三森 私は、全国の学校、スポーツ団体、民間企業などを対象とした、独自のカリキュラムに基づく言語技術(Language Arts)の教育・研修活動を行っています。言語技術とは、言葉の用い方を技術として捉え、語彙やつづり、文法、内容や文脈を踏まえた思考を論理的に組み立て、分かりやすく表現する作文技術や読みの技術など、言葉を操るための学びの体系を指します。

私の活動の原点は、中学校から高校時代にかけて過ごしたドイツでの経験にあります。現地の学校での学習にとっても苦労したのですが、その原因は言語の壁ではありませんでした。ドイツ

語が分かるようになって、大量の文章を読み、その内容を基に議論したり、自分の考えを論述したりする課題についていけなかったのです。一方、欧米諸国から来た生徒は、ドイツ語のレベルが私と同程度でも、そうした課題を難なくこなしていました。私は、彼らが数学のように、共通のスキルを学習しているのではないかと考えていました。

帰国して大学を卒業した後は、商社に勤めました。そこで私は、欧米のビジネスパーソンが議論の運び方や文書の作成などに長け、日本人よりも成果を上げている現実を目のあたりにしました。そうした状況は国語教育の違い(図1)によって生じていると考え、私は、言語技術の教育を自分の活動と

することに決めました。

欧米諸国では、幼少期の言語教育から体系化されています。例えば、就学前の読み聞かせでは、「なぜ」「どうして」と絶えず子どもに問いかけながら読むことで、分析的な読解、いわゆるクリティカルリーディングの芽を育みます。小学校に入ると、物語を自分の言葉で再現するリテリングなどに取り組んで、読解や作文の基礎を学び、学年が上がるに連れて自分の解釈をエビデンスに基づいて表現する方法を身につけていきます。中学校や高校ではより高度な要約や解釈が求められるようになりますが、エビデンスベースであることに変わりはありません。そうした学びが大学での論文やビジネスにおける議論の組み立て、文書の作成など

を支え、グローバルに活躍できる状況を生んでいるのです。

對馬 欧米諸国では、初等中等教育において読み書きの力を体系的に育成しているのですね。

三森 その通りです。これだけグローバル化が進むと、国際レベルの読解力を身につけていなければ、様々な面で不利にならざるを得ません。

読解力の不足が 人間関係のトラブルに発展

三森 読解力は社会人にとって必須の資質・能力です。ビジネスの成果を左右する読解力とは、読めて書ける力を指します。読むことはクリティカルリーディングができる、書くことは必要

読解力とは何か？

な情報を誰が読んでも分かるように論理的に組み立てられることを意味します。読み書きは表裏一体で、読めるから書けるし、書けるから読めるという関係にあります。

対馬 私は読解力とは、「主張」と「根拠」を理解する力と捉えています。相手が何を伝えようとしていて、それはなぜなのかという2点を押さえられれば、大きな誤解は生じないからです。さらに、自分の言葉で表現し直せると、なおよいと考えています。

三森 相手の主張を理解するといっ

つくは言語技術教育研究所 所長

三森ゆりかさんもり・ゆりか



中学校から高校にかけて4年間を旧西ドイツで過ごした経験などから日本の国語教育の課題に気づき、ドイツの母語教育をベースに言語技術を育成するカリキュラムを開発。全国の学校、民間企業、日本オリンピック委員会や日本サッカー協会などのスポーツ団体で言語技術の指導にあたってきた。文部科学省「読解力向上に関する検討委員会」などの委員を歴任。著書に『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』（大修館書店）など多数。

においては、文章でも口語でも主張が明確に示されるとは限りません。意図的に不明確にする場合もあります。そういった曖昧な表現の中の主張や真意を読み解くことも、社会では求められます。そこで役立つのが、文学を通して学びます。文学作品では作者の意図が明確に示されることは少ないため、

北海道・市立札幌藻岩高校

対馬光揮 つしま・こうき



同校に赴任して2年目。国語科。2020年度に「国語科における教科横断型授業の可能性」をテーマとした実践で、第69回読売教育賞国語教育部門最優秀賞を受賞。若手教師による対話のコミュニティ「若手教師・教育創造MTG（巻末の「編集部からのお知らせ」で紹介）のメンバー。

学校概要

設立 1972（昭和47）年
形態 全日制／普通科／単位制／共学
生徒数 1学年約240人
2023年度卒業生進路実績 国公立大は、小樽商科大、北海道教育大、北海道大、岩手大、埼玉大、東京学芸大、横浜国立大、琉球大などに106人が合格。私立大は、中央大、東京理科大、明治大、早稲田大、同志社大などに延べ311人が合格。

図1 欧米諸国の国語教育の例

- 教科書に掲載される短いテキストにとどまらず、丸本（本一冊）も頻繁に扱われる
- 読解のためのスキルを授業で指導する
- 議論を通してテキストを読解する
- 書かれた事実に基づいた論証を行いながらテキストを読解する
- 解釈は1つではなく、複数の解釈が成立する
- 読解後作文（感想文ではなく小論文）に取り組む
- 母語以外の教科、歴史、現代社会、哲学、経済、倫理、宗教、外国語などでもテキストを巡って議論し、読解し、作文（小論文）に取り組む

※文部科学省「言語力育成協力者会議（第1回）」での三森氏の説明を基に作成。

だが、個人的にはもっと増やしたいと思っています。

生徒に文学作品を英訳させて深い解釈を促す

対馬 長い文章で読み落としがあったり、質問されたことの真意を読み取れていなかったりするのが、生徒の読解力の現状です。短文で即時的にやり取りするSNSの普及や、読書時間の減少が高校生の読解力に影響を与えていると考えられています。上級学校や社会に送り出す立場としても、読解力の育成の重要性を痛感しています。

そうした生徒の状況を踏まえて、私は国語の授業の中で、読解力の育成のための様々な取り組みをしてきました。例えば、文学作品を使った実践では、芥川龍之介の『羅生門』を題材とした授業があります（P.24実践例）。授業は、英語科との教科横断型で実施し、作品の最後で登場人物の下人が発した「きつと、そうか。」という言葉葉を英訳する活動を通して、作品を深く解釈することを目指しました。

また、評論『暇と退屈の倫理学』を読み、本文の内容を図解する授業にも取り組みました。授業後、生徒からは「図解するにあたって、著者の主張は

限られた情報から相手の意図を読み取る力を育成するのに格好の教材です。**対馬** 同感です。文学作品を読んで自分が解釈したことを生徒同士で語り合ったり、自分の解釈を超えるために優れた批評論文を読んだりするプロセスは、社会で求められる読解力を養う上でも有用であると考えています。新課程では文学作品を扱う機会が減りまし

対馬先生の
実践例

『羅生門』を題材にした
国語と英語の教科横断型授業

◎授業の概要とポイント

登場人物の下人が最後に発する「きっと、そうか。」という言葉の英訳に取り組んだ。生徒だけでなく、翻訳者や英語科の教師の英訳も鑑賞し、多様な解釈・表現に触れて作品の読解を深めた。



◎生徒による英訳例

グループで考えた英訳	その日本語訳	解説・意図・ポイント
I see. I'm not wrong.	そうか、きっと俺は間違っていないな。	「right」ではなく、遠回しに「not wrong」にした。正しいと言い切るのではなく、間違っていないと記すことで、若干の妥協を表現した。
Will you forgive me too?	「お前も許すか？」	念を押しているという表現から疑問文にした。老婆が開き直って髪を抜く行動を正当化しているから。
I have no other way too. That's why, whatever I do, she won't hate me.	もうほかに生きる道がない。だから俺が何をしようと、こいつは私を恨まないだろう。	老婆が「仕方がないことだから許される」ということを言っていて、それに対して下人は「じゃあきっと俺も許される」と思ったからだと考えた。
I see.	そうか。	この発言は意図せず口から出たもので、「きっと、そうか。」に対応するように短いフレーズで英訳してみた。

◎翻訳者・英語科の教師による英訳例

You're sure she would, eh?	この女はお前のすることをきっと理解してくれる。そうなんだろ？
That's what I should.	それが俺のすべきことか。
Then so be it.	それなら、そうしよう。
This is humans.	これが人間なのだ。

◎生徒による振り返り

「日本語を英語に翻訳することで、内容に関する理解が進み、登場人物がどのような心情でその言葉を発したのかを深く考えることができました。また、考えたことを他者と共有することで、より深い理解につながる事が分かりました」

※対馬先生の提供資料を基に編集部で作成。

私は、授業などで最初に勇気を振り絞って意見を言った生徒に対して、「ありがとう。すごくよい意見だね」などと感謝の言葉をかけるようにしています。仮にその意見が妥当でない場合は、ほかの生徒から「私はそれは思わない」などと異議が表明されることが理想です。ただそのような時も、私は最初に発言した生徒の貢献に注目させるために、「あの意見があつたからこそ、皆さんは自分の意見と比較し、考えを深めることができました」などと最初の意見の価値を生徒たちと確認します。そうしたやり取りを繰り返すうちに、生徒は意見を言うことは自分が所属する集団に対する貢献なのだと思われ、間違いを恐れずに発言するようになります。そして、生徒間で議論が白熱しても、授業の終了の鐘が鳴れば、後隔れなく、その後の学校生活を営めるよ

何か、その根拠はどこに書かれているかを意識しながら文章を読んだ。普段、ここまでじっくり文章を読んでいなかったことに改めて気がついた」など、読解力の重要性を実感したという感想の声が聞かれました。

三森 図解という作業を通して丁寧に読解させるというのはとてもよい発想ですね。私も図解させる指導を積極的に取り入れています。しかし、それは評論に限らず、文学作品でもできます。様々な種類の作品で取り組むことで、生徒は学んだスキルがいろいろな状況に応用できることに気づくはずですよ。ただ、そうした授業は素晴らしいと思う反面、それがもし個人の実践にとどまっていれば、組織的な授業改善につながっていないとしたら、とてももっ

たいないことであり、日本の学校教育の大きな問題点だと私は感じます。対馬 個人の実践にとどめず、学校内外に実践を知ってもらうことは、教師が自身の授業改善に向けた視点を得るチャンスになると私も思います。本校でも、学校のウェブサイトを通じて授業実践を学校内外に共有し、組織的な授業改善を目指しています(＊)。

生徒が間違いを恐れずに
議論し合える場づくりを

三森 読解力の育成において、私が課題の1つだと感じているのは、「正解を言わなければ」という思いにとらわれている子どもが多いことです。日本の学校も、もっと子どもたちが自分の意見を恐れずに表現できる場にする必要があります。

＊ 市立札幌藻岩高校のウェブサイトでは、対馬先生が所属する国語科などの教育実践を公開している。
<https://www23.sapporo-c.ed.jp/moiwa/index.cfm/26,0,72.html>

本特集を振り返って

学校の中に読解力を発揮する『社会』を創る

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇



本特集の冒頭で、読者の先生方とともに考えたい「問い」として、「今後求められる読解力とはどのような力で、それをどのようにして育むのか？」と投げかけさせていただきました。その問いを探究するため、読解力の育成に課題意識を持つ読者や現場の教師に、今後求められる読解力についてお話しいただきましたが、そこには多くの共通点がありました。

その1つが、読解力はテキストに書かれていることを理解する力にとどまらず、理解したことを自分なりに解釈・評価し、それを他者に分かりやすく伝える力までを含むという点です。また、解釈・評価の際には批判的な視点が求められるという点も共通していました。正しいかどうか、立場を変えるところでどうかなど、多面的・多角的、そして分析的に物事を見ることができ、読解力を構成する要素ということなのです。さらに、解釈・評価し、他者に分かりやすく伝える際に求められるものとして共通して挙げられていたのが論理

性であり、それを裏つけるエビデンスでした。そのように、今後求められる読解力は、複数の要素から成る総合的な資質・能力であり、だからこそ、どの教科・科目においても育成すべき力であることは、現場の教師の実践にも見られた通りです。そしてそれは、PISA型読解力の説明の中に「効果的に社会に参加するために」とあるように、社会で生きて働く資質・能力であることから、その育成の鍵は、社会に開かれた教育活動を行うことにあると考えます。すなわち、読解の対象を文章だけではなく、図表やグラフといった非連続型テキストとすることを始めとして、社会で想定される読解の場面が経験できる探究学習や他者との対話的な活動など、生徒が読解力を発揮する『社会』を、学校の中にこれまで以上に創っていくことが今、求められているのではないのでしょうか。

な関係性が構築されていきます。

對馬 人ではなく、意見を批判し合える、そうした安全・安心な場づくりは、生徒にとっても、私たち大人にとっても大切なことだと思います。

三森 企業に入社してすぐに辞める社員が多いのは、少し批判されると、自分という人間が否定された気持ちになるからかもしれません。批判する対象はあくまでも意見そのものであり、意見を発した個人ではないという認識を、学校での学びを通じて浸透させることはとても重要なことだと私は思い

ます。

日頃から教師が質問をし、読解力を育む

三森 読解は、「なぜ」「どうして」という疑問から始まります。教師が日頃から質問を繰り返すことで、生徒は理由や根拠をしっかりと考えながら読み、そして理路整然と話せるようになっていきます。そうしたクリティカルシンキングのスキルが身につくと、他者の意見に対しても、「ここがおかし

い」「どうすればよい」と、すぐに気づけるようになります。

對馬 私も生徒に質問することを大切にしています。先日、生徒が授業の振り返りで、「先生は授業で『なぜ』『どうして』と本質を追究するように繰り返し聞くけど、どんな意見も受け入れてくれるから話しやすい」と言ってくれたことはとてもうれしかったです。

三森 教師の説明に対して生徒から、「私は先生の説明よりも、こう説明する方がより論理的だと思います」といった提案が出てくるようになるのが理

想です。そのためには、生徒に「なぜ」「どうして」と問うスキルを教師が磨くとともに、自分も学び手の1人として、生徒と対話を重ねているのだと自覚することが大切です。

對馬 三森さんのお話を聞いて、物事を「なぜ」「どうして」と批判的に読み解く力を生徒に育むことが、生徒自身や社会をよりよく変えていくことにつながるのだと感じました。生徒の人生を豊かなものにするために、読解力の育成に今後も取り組んでいきたいと思えます。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

クリティカルシンキングの
スキルを英語で学び、
文化祭の企画立案に取り組む



山形県・私立東北文教大学山形城北高校

Joshua Pako ジョシュア・パコ



同校に赴任して3年目。英語科。特進科1学年担任。
バスケットボール部顧問。オーストラリア国立大学卒業後、
来日。2021年度、同校の教師となった。

学校概要

- ◎設立 1926 (大正 15) 年
- ◎形態 全日制 / 普通科・特進科 / 共学
- ◎生徒数 1学年約 360 人
- ◎2022 年度卒業生進路実績 国公立大は、室蘭工業大、山形大、東京学芸大、新潟大、山形県立保健医療大などに 8 人が合格。私立大は、東北学院大、東北文教大、駒澤大、専修大などに延べ 160 人が合格。

私が
目指している
授業

中学生の時に、母国のオーストラリアで日本語を学び始めました。日本のことが好きなのに日本語は上達せず、高校の先生から「諦めれば？」と言われたこともありましたが、日本語を使えるようになりたいという一心で、オーストラリア国立大学言語学部で日本語を専攻しました。そうした経験から、私は母国語以外の言語を学ぶ大変さや人前で話す恥ずかしさをよく知っています。そのため、授業では生徒が失敗を恐れず、英語での活動を楽しめる雰囲気づくりを心がけています。また、自分がやりたいことを見つけられない生徒が少なくありません。クリティカルシンキングのスキルを身につけ、自分のことを深く知り、視野を広げるきっかけとなる授業を目指しています。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

授業レポート

本時の概要

- 【対象】 2年生
【教科・科目】 英語・英語コミュニケーションⅡ
【単元】 次年度の城北祭（文化祭）におけるクラスの出し物の企画立案（パコ先生が作成した単元【*1】）
【本時の目標】 クラスの出し物（お化け屋敷）の告知に生かすために、「1日に見る広告の数」について書かれた英語の素材文を読み、効果的な広告の方法について考える。
【授業時数】 全8時間のうちの6時間目

ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介！



1 広告の特徴をペアで話し合う ⌚ 10分間



ウォーミングアップとして、ペアでベンゲーム（*2）を行った後、パコ先生が、本時の学習内容は「城北祭（文化祭）でのクラスの出し物として決めたお化け屋敷の広告の方法を考えるために、広告の影響力について学ぶこと」と説明。「私たちが広告を見る場面」や「広告のよい点と悪い点」について、それぞれ1分間、ペアで英語で話し合った。

2 広告に関する素材文の読解 ⌚ 15分間



パコ先生が「人は1日に広告を幾つくらい見ていると思う？」と質問すると、生徒は「10」「15」などと予想を発言。予想が合っているか、その数をスマートフォンで調べ、ペアで結果を共有した。次に、「1日に見る広告の数」について書かれた英語の素材文を読み、広告の数や媒体など、読み取った内容を端末のワークシートに英語で入力した。

3 各広告媒体のTQCを考える ⌚ 15分間

本時のキー課題



4人1組のグループとなり、各グループに新聞・看板・SNS・動画投稿サイトなどの広告媒体を割りあてた。それぞれ、Time（時間）、Quality（質）、Cost（費用）の「TQC」の視点で、割りあてられた広告媒体の特徴について、英語と日本語を交えて話し合った。データを多角的に検討する力を高めることも、本単元のねらいの1つだ。

4 他のグループとTQCを共有 ⌚ 10分間



グループで話し合ったTQCについて、端末のワークシートに英語で入力。「Cost: A little high, because the signboard is big.」などと理由を添えるよう、パコ先生は指示を出した。次に、各グループから1人ずつ集まって4人1組の新しいグループを作り、元のグループで話し合った広告媒体のTQCについて、1人1分間、英語で発表。様々な広告媒体のTQCを共有した。

*1 同校では毎年9月に城北祭（文化祭）を開催しており、夏季休業中に行う準備は担任、生徒ともに負担が大きかった。そこで、クラスの出し物の検討を教科学習と関連させて行うことをパコ先生が学校に提案。了承され、本単元を作成した。 *2 ペンを持った人が英単語を言ってペアの相手にペンを渡し、渡された人は別の英単語を言ってペアの相手にペンを渡す。それを繰り返し、タイムアップ時にペンを持っていた方が負けというゲーム。本時では「教室にあるもの」をテーマにゲームを行った。

お
勧
め
の
分
享

管
理
職

教
務
担
当

進
路
担
当

担
任

発問・課題設定の観点



英語で学びながら
クリティカルシンキングを
高めていく

本単元は、英語を使いながら次年度の城北祭（文化祭）のクラスの出し物の準備をする内容とし、英語4技能とクリティカルシンキング、分析力を総合的に高めていくことを目指しました。

クリティカルシンキングの育成は、普段の授業でも意識しています。教科書には書かれていない自分の考えを、根拠とともに表現できることを目指します。定型の表現を身につけると、英語が苦手な生徒も意見を

発信しやすくなるため、言語活動が活発になります。

1つ前の単元では、「TEXAS」(*3)を取り上げました。それは主題・説明・例文・分析・要約の略称で、論理的・批判的な文章を書くために必要な要素です。それらを踏まえて英作文に取り組んだところ、多くの生徒が「A（分析）」が書けていませんでした。そこで、分析の視点を持てるよう、本単元では「TQC」(*4)を取り上げ、本時は「看板の製作には時間や費用がかかるが、SNSは複製が容易で費用が抑えられる」などと、生徒は広告媒体を多面的に捉えて話し合っていました。

図1 本単元の指導計画の概要 (全8時間)

- 1 2023年度の城北祭の振り返り
23年度の城北祭でのクラスの出し物について、よかった点や課題を生徒間で共有。
 - 2 TQCについて学ぶ
Time (時間)、Quality (質)、Cost (費用)の「TQC」で経済効率を捉える考え方について、大手ファストフードチェーン店を例に説明。
 - 3 提案書を作成
TQCを踏まえて、次年度の城北祭の出し物や運営方法などについて話し合い、英文で提案書(250~350語程度)を作成(ライティングのパフォーマンステスト)。
 - 4 提案書を発表
グループ内で提案書を発表し(発表のパフォーマンステスト)、出し物を検討。
 - 5 出し物の運営方法を検討
特進科2クラスのうち、1クラスはお化け屋敷、もう1クラスは飲食店に決定。運営方法について話し合った。
 - 6 広告の効果について学ぶ(本時)
英語の素材文の内容やTQCを踏まえて、広告の特徴について話し合った。
 - 7 広告媒体を決定
各広告媒体をTQCで比較し、次年度の城北祭で活用する広告媒体を決める。
 - 8 振り返り
リフレクションシートを基に本単元を振り返る。
- ※学校資料を基に編集部で作成。

学習評価の工夫



ChatGPT⁵、
ルーブリックと
英文の模範解答を作成

本単元の学習評価は、生徒が各自で作成する出し物の提案書とその発表、授業態度などを基に行います。提案書と発表は5段階のルーブリック(図2)で評価し、発表では生徒の相互評価も行いました。

評価の過程ではChatGPTを活用し、業務の効率化と生徒の英語による表現力の育成に役立てています。本単元では次のように使いました。

- 1 ChatGPTで提案書のルーブリックを作成し、生徒に提示。
- 2 生徒の手書きの提案書を添削。ルーブリックの該当レベルと評価コメントを記入。
- 3 ChatGPTで生徒の提案書と同じ内容・分量・レベル(CEFR⁵のA2レベル)の英文を模範解答として作成し(P.29コラム)、添削した提案書とともに生徒に返却。私の添削と模範解答を読んだ生徒は、「この単語を使えばよかったの

か「こんな表現もあるのか」といったことに気づいたはず。それが単語や文法、表現のスキルアップにつながるかと期待しています。

図2 提案書のルーブリック(抜粋)

Level	Structure (TEXAS)	Content (Idea Explanation)	Language Accuracy	Analysis
Excellent	Exceptionally well-organized with a clear introduction, body, and conclusion. Logical flow and coherence throughout.	Highly relevant and thoroughly developed content. Ideas are innovative and align with the festival's goals.	Minimal to no errors. Near-native accuracy. Appropriate B1 level vocabulary and expressions.	Comprehensive analysis of "Time," "Quality," and "Cost." Demonstrates a deep understanding of the proposal's feasibility and impact.
Good	Clear structure with defined introduction, body, and conclusion. Good flow of ideas.	Relevant and well-developed content with clear, practical suggestions or ideas for the festival.	Few errors that do not hinder comprehension. Good use of A2-B1 level vocabulary and	Detailed analysis of "Time," "Quality," and "Cost." Shows a good understanding of the proposal's practical

※学校資料を基に編集部で作成。

* 3 Topic sentence (主題)、Explanation (説明)、Example (例文)、Analysis (分析)、Summary (要約)の頭文字を取った略称。 * 4 Time (時間)、Quality (質)、Cost (費用)の頭文字を取った略称。 * 5 ヨーロッパ言語共通参照枠 (Common European Framework of Reference for Languages)の略称。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会が発表。A (基礎段階の言語使用者)、B (自立した言語使用者)、C (熟達した言語使用者)ごとに2レベル、計6レベルが設定されている。



ChatGPTを活用した授業づくり

授業で扱う素材文のレベルの修正やテストの作問、学習評価などでChatGPTを活用し、業務の効率化を図っています。具体的には次のように活用しています。

●素材文を生徒の英語のレベルに応じて書き直す

本時のリーディングの素材文として扱った「1日に見る広告の数」は、ChatGPTで作成しました。テーマに合った素材文はあったのですが、本校の生徒にとっては少し難しい英文でした。そこで、ChatGPTを活用しながらCEFRのA2レベルの英文に書き直しました。

●提案書のルーブリックと模範解答を作成

提案書のルーブリック(図2)は、次のプロンプト(*6)をChatGPTに入力して作成しました。

私はCEFRのA2レベルの生徒に英語を教えています。彼らはちょうど筆記試験を終えたところです。彼らの課題は、1)文化祭の新しいイベント、または2)例年行われているイベントの改善案を作成することでした。以下の基準で評価されます。

- 1) 提案の構成
- 2) 提案の内容
- 3) 言葉の正確さ
- 4) 提案内容の分析(提案の時間・質・コストを評価する)
- 5段階のルーブリックを表形式で作成してください。

模範解答は、生徒が作成した提案書をGoogleレンズ(*7)で撮影して文字データに変換し、それを基

にChatGPTでCEFRのA2レベルの英文を作成しました。生徒は、私の添削とともに、自分が作成した提案書を基にした模範解答を受け取りました。そのフィードバックの方法は、「自分が作成した英文をより具体的に振り返ることができる」と、生徒から好評です。

●生徒の英語のレベルに合わせた作問

リーディングの問題は、ChatGPTに以下のプロンプトを入力して作成しました。生徒の英語のレベルに合った作問ができています。

目標: 生徒の英語を読む能力を高めたい。さらに助動詞の復習をさせたい。

CEFRのA1レベルの生徒に、助動詞の「can, should, will, must, may」を教えています。次の条件で英語のリーディング問題を作ってください。

- リーディング問題は150語
- できれば助動詞をたくさん使う
- テーマは海外旅行

問題を作り終わったら、文章から4文字以上の単語を取り上げて、単語リストとしてまとめてください。

ChatGPTは進化途中のもので、あくまでもツールの1つです。ChatGPTが作成したルーブリックや模範解答などは私が必ず内容を確認して、プロンプトを修正して作り直したり、自分で修正したりした上で活用しています。それでも、自分でゼロから作成するよりも、労力は大幅に軽減されます。ChatGPTの活用によって捻出できた時間は、生徒とのコミュニケーションや教材研究などに充てています。

お
勧
め
の
分
掌

管
理
職

教
務
担
当

進
路
担
当

担
任

成果と展望

自信を持って
英語を使えるように
なった生徒たち



大きな成果は、生徒が自信を持って英語を使えるようになったことです。恥ずかしくて話せなかった生徒や、教科書に書いてあることしか話せなかった生徒が、自分の意見を積極的に英語で述べている姿を見ると、達成感が満たされます。

私が得意なクリティカルシンキングや思考の枠組みを生かして、教科学習と学校行事を連携させた単元が実現したことも成果の1つです。生徒も教師も、3年次の文化祭の準備時間を削減できると期待しています。次年度は、予算も含めた提案書を発表する単元にする予定です。

今後の目標は、大学入試でも成果を出すことです。クリティカルシンキングは社会だけでなく、大学入試でも重視されています。生徒の希望進路の実現につながる授業を、これからも追求していきます。

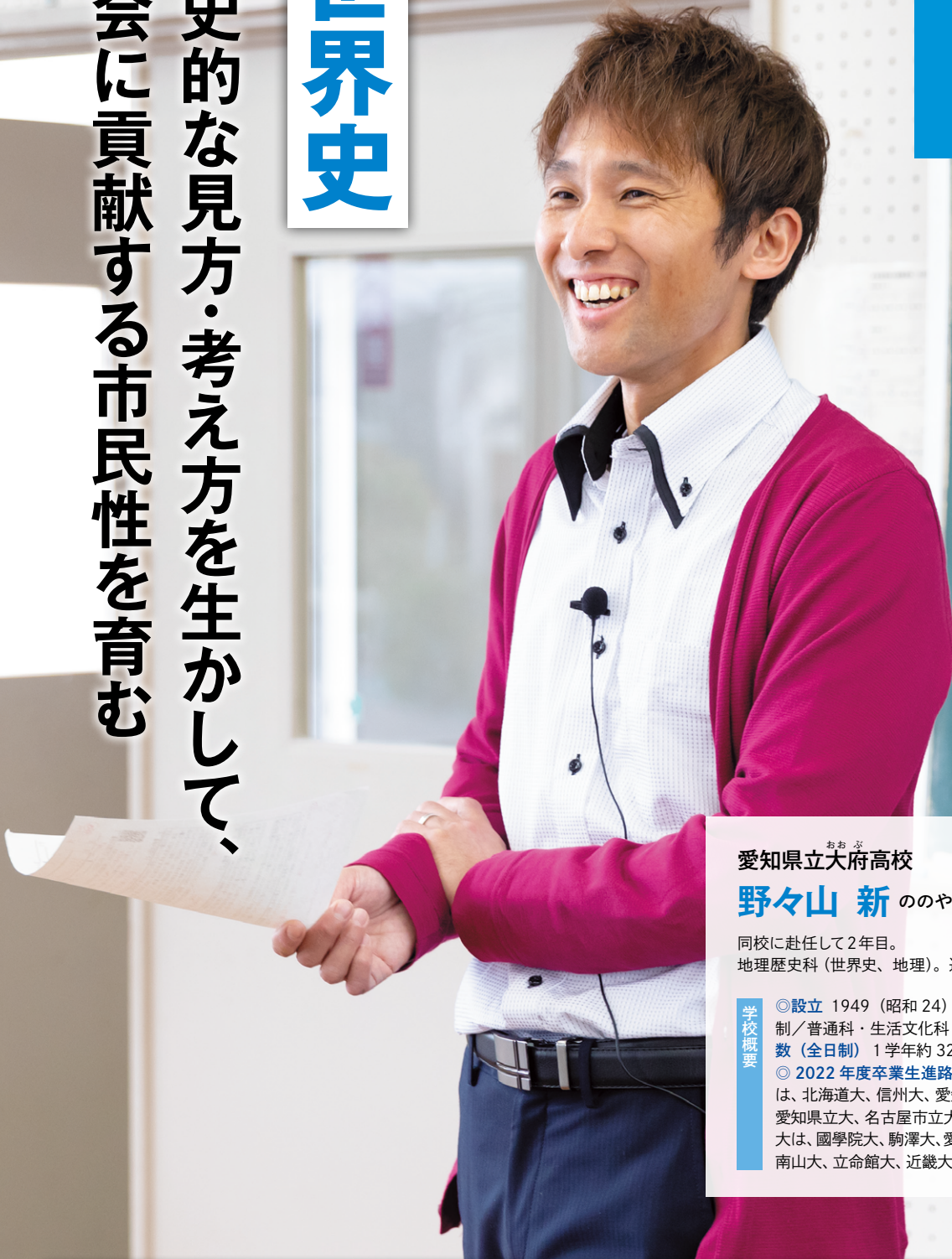
*6 コンピューターの操作時に入力や処理を促すメッセージや記号のことで、生成AIの利用においてはユーザーが入力する指示や質問のことを指す。
*7 カメラを通して映したものの情報をAIを使って提供してくれるアプリケーション。映した物の名前を検索したり、読み取ったテキストを翻訳したりすることができる。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

世界史

歴史的な見方・考え方を生かして、
社会に貢献する市民性を育む



愛知県立^{おおぶ}大府高校

野々山 新 ののやま・しん



同校に赴任して2年目。
地理歴史科(世界史、地理)。進路指導部。

学校概要

◎設立 1949(昭和24)年 ◎形態 全日制・定時制/普通科・生活文化科(全日制)/共学 ◎生徒数(全日制) 1学年約320人

◎2022年度卒業生進路実績(全日制) 国公立大は、北海道大、信州大、愛知教育大、三重大、広島大、愛知県立大、名古屋市立大などに64人が合格、私立大は、國學院大、駒澤大、愛知大、金城学院大、中京大、南山大、立命館大、近畿大などに延べ590人が合格。

私が
目指している
授業

「世界史探究」で扱う内容は、私たちが住む世界とは時間軸や空間軸が異なります。「世界史探究」を学ぶと、視野を広げて異なる視点で考えることの重要性を認識できます。そして、自分とは異なる立場で多面的・多角的に物事を捉えられるようになり、現代の諸問題の解決策が考えやすくなります。そうした学びを実現するため、生徒の固定観念を揺さぶり、相対化させる問いを設定するとともに、生徒の関心を踏まえた資料を提示することに力を入れています。生徒が歴史的事実を学ぶだけでなく、歴史的な見方・考え方を働かせて社会をよりよくしたいという意識を持てるような授業づくりにまい進しています。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

授業レポート

本時の概要

- [対象] 2年生 [教科・科目] 地理歴史・世界史探究
[単元] 諸地域世界の交流・再編
[テーマ] 交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか
[単元目標] 資料の多面的・多角的な考察を通して、ヒト・モノ・情報の移動がもたらす影響を自分の言葉で表現する。
[授業時数] 全10時間のうちの8時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 予習した内容をペアで確認 5分間



野々山先生の授業では毎回、問題集の指定された問題を解いてくることが予習として課される。授業の冒頭では生徒がペアになり、予習で解いた問題を出し合うなどして重要事項を確認した。その間、野々山先生は「交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか」と板書し、本時の問いを生徒と共有した。

2 画像資料との対話 15分間



本時の問いを考察するための5つの小問に取り組んだ。1問目は、北宋の都を描いた画像2点から読み取ったことをペアで話し合う問題だ。「この都市は繁栄していると言えるか」と野々山先生が問うと、「画像に関連する文字資料があるとよい」「データがあると判断しやすい」といった声が生徒から上がった。

3 文字資料との対話 25分間



2・3問目では宋代の官僚などが市中の様子を記した複数の文書を、4・5問目では民衆の反乱が発生した場所や年代、発生の背景を表した資料を読み、交易が何をもたらしたのか、ペアで話し合った。野々山先生が「どう考えた?」と問うと、生徒は「繁栄しているが、格差が広がっているようだ」と答えた。

4 本時の問いの考察を記述 5分間



生徒から考察を聞いた後、「異なる資料を比べたら、新たに考えたことがあったね」と野々山先生。最後に生徒は、「交易活動が生み出す富は、人々を『つないで』いるのだろうか」という問いに対して、「身分の異なる人たちをつないだとは言えない」などと、自分の考察をプリントに記入した。

発問・課題設定の観点



生徒の固定観念を揺さぶる

単元を貫く問いを設定

単元を貫く問いは、生徒の関心と単元目標を踏まえて設定しています。本単元を貫く問いは、「歴史総合」での学習を通じて「交易はよいもの」と捉えている生徒を揺さぶろうと、「『交易の拡大は世界の繁栄に貢献した』にどの程度賛同するか」としました。そして、単元を貫く問いにつながる問いを各時で設け、その考察を積み重ねた上で、最終的に単元を貫く問いを考察するという単元構成にしています(図1)。なお、本時の

図1 本単元の問い(全10時間)

単元を貫く問い「交易の拡大は世界の繁栄に貢献した」にどの程度賛同するか。

- ① 交易の拡大がもたらすものは？
諸地域世界の交流・再編の学習に向けた問いを抱かせる。
- ② アフリカの視点から交易を見ると？
アフリカ史から問いを検証する。
- ③ 対立は交易にどう影響するの？
十字軍に関する歴史から問いを検証する。
- ④ なぜ対立しているのに、交易が盛んになるの？
十字軍の影響から問いを検証する。
- ⑤ 交易は国王の権力にどんな影響を与えたの？
王権の伸張に着目して問いを検証する。
- ⑥ 交易の影響は文化をどのように変質させたの？
中世欧州の文化史から問いを検証する。
- ⑦ 経済の影響は中国でも共通する？
中国宋代史から問いを検証する。
- ⑧ 交易は人々にどんな恩恵をもたらしているの？(本時)
経済活動と人々のかかわりに着目して問いを検証する。
- ⑨ モンゴルは壊し屋？ 運び屋？
軍事と経済の関係から問いを検証する。
- ⑩ 「交易の拡大は世界の繁栄に貢献した」にどの程度賛同する？
これまでの考察を踏まえて意見を記述。

※学校資料を基に編集部で作成。

問いは「交易は人々にどんな恩恵をもたらしているのか」としました。

本単元では、中国や欧州、アフリカなどの歴史を扱います。古くから世界各地で進むグローバル化の過程の学習を通じて、交易を軸に歴史を構造的に捉えることができるようになるでしょう。「歴史総合」の成果を活用した探究学習は、世界史の理解を深め、社会をよりよくしていく市民性が一層磨かれると考えています。

授業では、生徒の考察が浅いと感じたら、生徒間で考察を比較するために話し合わせたり、着目すべき点を指摘したりして、段階を踏んで考えられるよう、支援します。そして生徒間で小問の考察がまとまったら、次の小問に進むよう、声をかけます。

学習評価の工夫

単元ごとに

自分の考察を記述する

パフォーマンス課題を実施



単元末には、単元を貫く問いの考察を記述するパフォーマンス課題に取り組ませ、「思考・判断・表現」の評価をしています。重要事項を押さえて、自分の考察を記述することができてB評価、自分の考察から新たな問いを創り出すことができたならA評価などとしています(図2)。

生徒は1時間かけて課題に取り組みます。なお、教師が一方的に評価するだけでは、学びに対する受け身の姿勢から抜け出せないと考え、相互評価を取り入れています。生徒間で考察を吟味することで、歴史的な見方・考え方を洗練し合う学習空間になってきたと感じています。また、相互評価を試行する過程で、生徒による評価と私の評価が一致していき、生徒による評価を参考にすることで、結果として効率よく評価ができるようになったという一面もあります。

図2 パフォーマンス課題の問いとルーブリックの例(抜粋)

◎単元の問い：万里の長城は世界遺産でよいのだろうか

遊牧民と農耕民、オアシス民の接触や融合、対立や分化について考えてきたことを踏まえて、人為的国境であった万里の長城を世界遺産とすることはふさわしいか否か、グループで表現してみよう。(以下略)

	知識	資料史の活用	課題に向き合う粘り強さ
A	授業で学習した前3世紀から7世紀までの中央ユーラシアの諸部族を時系列に沿って取り上げ、その概要を教科書や資料集を基に的確にまとめており、その成果が本単元の問いに対する考察に効果的に反映されている。	資料史や事実を根拠に論理的に説明しつつ、扱っている資料史を作成した人の立場や目的を踏まえた表現活動をしている。	本単元の問いに正解がないことを前提としながら、自分たちなりの意見を明示するとともに、その意見の限界や問題点を指摘し、さらなる探究活動の必要性を自覚している。
B	中央ユーラシアの諸部族を複数取り上げ、その概要を教科書や資料集からの確にまとめて説明している。	説明における根拠として、資料史や事実を活用した表現活動をしている。	問いに対して、自分たちなりの意見を明示している。

※学校資料を基に編集部で作成。

定期考査では、知識及び資料史を読み解く技能を見る問題を約6割、根拠に基づいて思考・判断して自分の考察を表現する記述式問題を約4割の比率で出しています。



海外に開いた授業で「市民性」を育む

生徒に市民性を育もうと、海外の高校生との交流授業などを実施し、学びを教室の中だけに閉じず、社会に開いています。意識しているのは、生徒が世界の時事的な問題にリアルタイムに向き合えるようにすることです。2020年にタイでデモが発生した際には、タイの高校生と日本の高校生が対話を通じてデモに対する認識を深める授業を、22年度には戦時下のウクライナで医療支援活動を行う日本人医師と対話する授業を行いました。



写真1 中国の高校生との合同授業は、「世界史探究」の時間に実施。オンラインで上海市甘泉外国語中学とつないだ。発表に対して相互に質問が出るなど、活発なやり取りが行われた。

Ⅲ. 日中間の高校生対話から、日中の友好進展に向けて感じたこと、学ぶべきと思ったこと、行動すべきと思ったことなどを感情のままに表現しよう

- 同じ「鉄道」というテーマでも日本と中国で取り上げる部分が異なり、視点の違いを感じた。
- 日本と中国の間に触れにくい話題もあったが、それを互いに乗り越えて友好関係を築くためにもそのことについて知り、理解を深める必要があった。
- 中国のことについてまだまだ知らないこともたくさんあったので、今回と同じように詳しく調べてみたい。

写真2 合同授業に参加した同校のある生徒は、「両国の友好関係をつくるためにも、両国が触れにくい話題について理解を深めることが必要だ」と記した。中国の生徒との対話を通して、両国の関係に対して自分に何ができるのかを考えた様子がうかがえた。

●中国の高校生と合同で行った歴史の授業

23年度は、中国で日本語を学ぶ高校生と本校の生徒が、「鉄道の歴史に見る日本、中国、アジアの意義と課題」をテーマに、それぞれで調べたことを発表し合う合同授業をオンラインで実施しました(写真1)。

興味深かったのは、どちらの生徒も鉄道は経済発展に貢献したとしつつ、日本の生徒が鉄道の敷設による環境破壊や公害の発生といった負の側面に着目したのに対し、中国の生徒は自動車の減少などにより環境保護につながっているとポジティブに捉えていたことです。本校の生徒は、そうした中国の生徒との共通点と相違点を感じ取っていました(写真2)。

●異文化との交流が多面的・多角的な思考を促す

中国とは歴史認識などに関する難しい問題もありますが、日中友好のためには対話の継続が必要不可欠です。今回の合同授業に参加した生徒からは、中国が身近な存在に感じられたといった声が聞かれました。そのように、異文化との交流を通して多面的・多角的に思考し、表現する経験は、未来を担う生徒の市民性の向上に確実に繋がると考えています。

成果と展望

探究のサイクルが回り、人生につながる
資質・能力が育ちつつある



単元末に行うパフォーマンス課題では、どの生徒も正解か不正解かにとらわれず、自分の考察を表現することができるようになっています。うれしいことに、生徒の授業アンケートには、「歴史は暗記科目ではなく、未来に生かす科目というイメージが変わった」との記述も見られます。そうした生徒の言動から、問いを立て、考察し、検証する探究のサイクルが回り、学校教育の枠を超えて生涯活用することができる問題解決能力が育ちつつあると、手応えを感じています。

また、生徒は、探究には歴史的事実の知識が必要だと理解し、知識の習得にも主体的に取り組むようになりました。それが模擬試験の好成績につながっていると考えています。

これからも生徒同士や生徒と教師の対話を中心とした授業を通して、生徒に市民性を育んでいきます。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

探究では「リアルな体験」を、 必要なスキルは教科学習で習得

京都府・京都市立日吉ヶ丘高校

探究学習とつながり、
教科学習を社会に開く

山上隼人

やまがみ・はやと 同校に赴任して6年目。進路指導主事。国語科。

探究学習に必要なスキルの
育成を教科学習に委ねた

廣木大雅

ひろき・たいが 同校に赴任して7年目。企画推進主任。理科。

〈京都市立日吉ヶ丘高校の探究学習〉 現在の自分を認識し、自らの挑戦によって自分の境界を越えていく「越境」をキーワードに、「総合的な探究の時間（キャリアゼミ）」を1・2年次に実施している。自分とは異なる他者、そして社会に触れる中で自分の世界を広げ、新しい価値を創ることができる「世界をつなぐ越境者」の育成を目指す。2023年度からは『自分らしい、よりよい生き方』×『他者・社会へのかかわり』を共通テーマに、生徒はチームごとに解決したい社会課題を設定し、探究学習に取り組む。

つながりの目的

実体験の充実のために
教科学習と連携



廣木 「キャリアゼミ」では、探究学習を進める上で必要となるスキルや型の習

得以上に、生徒の知的な興味・関心、エモーショナルな動機に基づきリアルな体験を重視しています。近年、生徒の進路実現の点でも存在感が増している総合型選抜では、体験の中の気づきや学びを、自分ならではの志望理由に昇華させることができているかどうかが見られることもあり、進路指導部からも生徒が自由に、とことん挑戦できる環境づくりが求められています。

とは言え、探究学習の充実にはスキルや型も必要です。そこで考えたのが、探究学習と教科学習との連携であり、その1つが、山上先生の国語の授業と連携して行った、「振り返り」『プレゼンテーション』など、探究学習に必要なスキルの育成です。山上先生とは理想の学校像や教師の役割について本音で話してきました。山上先生と本校の探究学習のあり方を語り合う中で、探究学習に必要なスキルを各教科で育むような連携を目指そうと考えたのです。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

探究学習にこうかかわった

学びに必要な言葉の活用を丁寧に指導



山上市 人は思考の言語化を通して他者と問題意識を共有したり、新たな考えを発見したりします。言葉の活用も扱う国語の中で、ディベートやプレゼンテーションの準備過程を丁寧に指導することで、探究学習の質が上がると考えました。

例えば、「現代の国語」では、「書く」とはどのような営みかを深く考えさせました。私たちは、どんな時に書くのか、書くことで何が得られるのかを理解することで、探究学習での振り返りが「やらされている作業」から「意図を持って主体的に取り組む作業」へと変わります。

また、12コマを使って文献リサーチ、スライド・原稿作成、ペアでの推敲など、実践的な準備過程に焦点をあててプレゼンテーションに取り組みました。そのほか、「根拠と主張のつながり」を考えて論理的な商品レビューを書く「論理の展開を予想しながら聴衆を納得させるディベートをする」など、多様な言語活動を国語の授業で行って

きました。

国語の授業で、話す・聞く・書く・読む力を身につけるのは、そうした力が実社会で求められるからでもありません。本校の探究学習は、社会に開かれたリアルな体験の場ですから、国語を始めとする各教科の学習が探究学習と連携すれば、各教科においても社会に開かれた学びが実現します。そして、生徒には、探究学習の中で行動を起こす過程で、様々な資質・能力の重要性に気づいてもらい、それらの習得への渴望感を持って、各教科の学習に臨んでもらいたいと考えています。

今後の探究学習を展望する

探究学習と教科学習を対立させてはいけない



廣木 本校では毎年1月、探究学習の成果を1・2年生合同で発表する「越境祭」が開催されます。2023年度の越境祭を見て感じたのは、発表内容から派生した想定外の質問にも堂々と答える生徒が増えたことです。それは明らかに国語の授業でプレゼンテーションの準備過程を指導した成果でしょう。

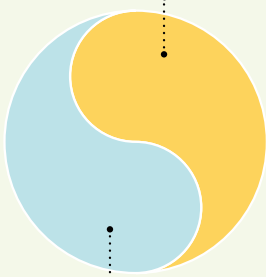
教科との連携を進めるためには、教

つながりのPoint

自校の生徒の実情を踏まえて探究学習を役割分担する

国際交流や国際理解教育が活発で、多様な価値観に接する機会が多い日吉ヶ丘高校には、社会課題に接する中で感じた喜怒哀楽を、その後の学びの原動力にすることができる生徒が少なくない。そのような自校の生徒像を若手・ミドル層の教師が確認する過程で、自校の探究学習では「リアルな体験」を重視しようという方向性が固まっていた。

リアルな体験



探究学習に必要なスキル・型

探究学習の時間では、できるだけ生徒を外に出し、他者と触れ合い、感動を味わわせる

教科学習の時間では、探究学習に必要なスキル・型を身につけさせる

学校概要

設立 1949（昭和24）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約240人
2022年度卒業生進路実績
国公立大は、京都教育大、兵庫教育大、高知大、東京都立大、京都市立芸術大、大阪公立大、神戸市外国語大などに9人が合格。私立大は、早稲田大、京都産業大、同志社大、立命館大、龍谷大、関西大、近畿大などに延べ536人が合格。

師が他教科の学習内容や進度を知ることが重要だと言われますが、私はまず、育てたい生徒像や理想とする教育について教師同士で話し合うことが重要だと思っています。自分の授業や探究学習で生徒がどのように成長したか、その姿を目にした喜びを教師同士で語り合う中で、育成を目指す生徒像を共有することが出来ます。その上で、目指す生徒像の実現に向けて、「自分の授業ではこの資質・能力が育成できる」などと、自然とコンピテンシーベースでの教科間の連携が進むのがよいと考えています。

私は、探究学習と教科学習は別物とは捉えていません。別物と考える限り、教師にとって探究学習は「仕方なくやるもの」になってしまいます。未来を生きる生徒のために、そんなことはあってはならないと思っています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

そうだったのか!

学習評価

本コーナーの2023年度8~2月号を基に、チェックポイントをまとめました

今号のテーマ

4つの チェックポイント

理解度を確認!

年次進行で実施されてきた高校の新学習指導要領が今年度、いよいよ全面实施となります。そこで今号では、今回の学習指導要領改訂の柱の1つである学習評価におけるチェックポイントを、本コーナーの23年度の記事を基にまとめました。校内全体の理解度を確保する資料として、ぜひご活用ください。

チェックポイント 1 「総括的評価」と「形成的評価」の違いを理解できている。

総括的評価は評定をつけるための評価で、場面を限定して行います。一方、形成的評価は指導改善に生かすための評価で、基本的には毎授業行いますが、評価の生かし方は個々の教師に委ねられます。その違いを理解することは、適正な評価や評価に対する負担感の軽減につながります。

● 総括的評価と形成的評価の違い

	総括的評価	形成的評価
目的	評定をつける	指導の改善に生かす
実施 タイミング	育成を目指す資質・能力が顕著に表れると考えられる場面や成果物などを選んで実施	基本的に毎授業で実施
対象	生徒全員を評価	生徒全員でなくてもよい
仕組み	少なくとも同一科目では、教師間で評価規準や評価方法を統一	教師それぞれの方法で評価してもよい
方法	単元末テスト、パフォーマンス課題、レポートなど	観察、振り返りシート、小テストなど

※田村学教授への取材を基に編集部で作成。

セルフチェック 理解できていた 理解できていない点があった

8月号の本コーナー(P.32-33)では、総括的評価と形成的評価について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



チェックポイント 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた学習者の意思的な側面を評価することだと理解できている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、生徒が自分の学習状況を把握し、自分の学習を調整しながら学ぼうとしているかといった意思的な側面を評価することが求められます。生徒に期待するそうした態度や姿を具体的に言語化し、評価規準を設定することが重要です。例えば、下のフォーマットを参考に作成してみましょう。

● 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定フォーマット

○○について(おいて)、△△しながら(して)、□□しようとしている。

○○: 活動や場面、状況など △△: 態度に関する非認知系の知識など
□□: 「主体的に学習に取り組む態度」として表れる行為

例1 レポートの作成において、友人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめようとしている。

例2 グループ活動において、互いのよさを生かしたり、独自のアイデアを発揮したりしながら、問題解決を図ろうとしている。

※田村学『学習評価』(東洋館出版社)を基に編集部で作成。

セルフチェック 理解できていた 理解できていない点があった

10月号の本コーナー(P.28-29)では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



本記事のお勧め活用法

チェックポイント1~4の理解度を教師一人ひとりがセルフチェック



校内全体で理解度が低かったチェックポイントを特定



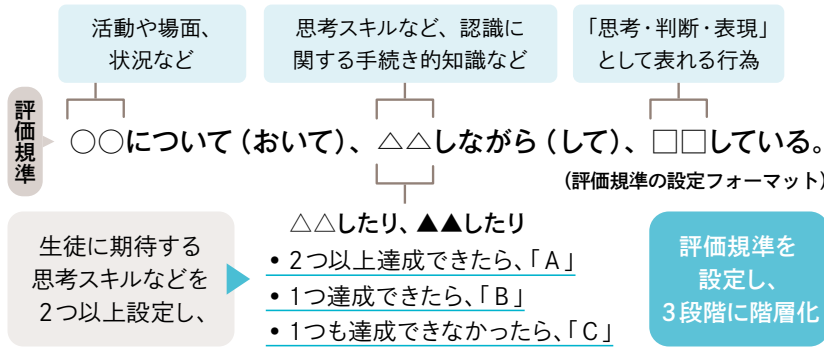
理解度が低かったポイントについて詳しく解説した本コーナーの23年度の記事を用いて校内研修などを実施し、理解を深める

チェックポイント 3

生徒の実態に即した学習評価ができる評価規準がどのようなものかを理解できている。

評価規準は、「その学習によって期待する生徒の姿」を具体的に言語化したもので、ペーパーテストでは見取ることが難しい資質・能力を評価することが可能になります。評価規準をどの程度達成したかという質的・量的な評価をするためには、評価規準を設定した上で階層化することが考えられます。例えば、評価規準の設定フォーマットを用いて、生徒に期待する思考スキルなど（下図の△△の部分）を複数設定し、2つ以上達成できたら「A」、1つ達成できたら「B」、達成できなかったら「C」として、3段階に階層化することができます。

● 評価規準の設定の例 「思考・判断・表現」の場合



△△の例：比較しながら／関連づけながら／見通しながら／工夫しながら など
□□の例：論述している／観察している／伝え合っている／計画を立てている など

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）と田村学教授への取材を基に編集部で作成。

セルフチェック

- 理解できていた
- 理解できていない点があった

12月号の本コーナー（P.26-27）では、評価規準の設定と運用のポイントについて詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。



チェックポイント 4

評定への総括の方法を理解できている。

評定への総括にあたって、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）に係る記録が観点ごとに複数ある場合は、まずはそれらを総括します（下図①）。その上で、総括した観点別評価の結果を、A、B、Cの組み合わせによる方法（下図②左）や、A、B、Cを数値に置き換える方法（下図②右）などで評定として総括します。

① 観点別評価に係る記録が観点ごとに複数ある場合の、その総括の方法例

評価結果のA、B、Cの数を基に総括する方法

例えば、3回評価を行った結果が「A B B」ならば、最も数が多い「B」と総括する。

	知識・技能
単元①	A
単元②	B
単元③	B
1学期末の評価	B

評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する方法

A=3、B=2、C=1のように数値化。平均値を出して総括する。

	知識・技能	数値変換
単元①	A	→ 3
単元②	B	→ 2
単元③	B	→ 2
1学期末の評価	B	← 平均値約2.3

注)「B」とする範囲を「1.5 ≦ 平均値 < 2.5」とした例。

※国立教育政策研究所教育課程研究センター『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）と、田村学教授への取材を基に編集部で作成。

② 総括した観点別評価の結果を基に評定に総括する方法例

各観点の評価結果をA、B、Cの組み合わせにより総括する方法

例えば、総括した3観点の評価結果が「A B A」ならば、「4」とする。A、B、Cの組み合わせと評定がどう対応するかは、事前に設定しておく。

	観点別評価の結果
知識・技能	A
思考・判断・表現	B
主体的に学習に取り組む態度	A
評定	4

A、B、Cを数値に置き換えて総括する方法

A=5、B=3、C=1のように数値化。平均値を出して総括する。

	観点別評価の結果	数値変換
知識・技能	A	→ 5
思考・判断・表現	B	→ 3
主体的に学習に取り組む態度	A	→ 5
評定	4	← 平均値約4.3

注)「4」とする範囲を、「3.5 ≦ 平均値 < 4.5」とした例。

セルフチェック

- 理解できていた
- 理解できていない点があった

2月号の本コーナー（P.28-29）では、評定への総括の考え方や方法について詳しく解説しています。右の2次元コードからアクセスしてください。





地域連携

小さな学校の大きな挑戦
全国・世界募集で起こすイノベーション

広島県立加計高校

1分
で分かる軌跡

少子化や鉄道の廃線などの影響で生徒数が減り、存続の危機にあった広島県立加計高校。2015年度に地元の安芸太田町の予算で生徒寮を設置し、入学者の全国募集を開始したが、初年度の県外受験者はゼロだった。そこで、地域や企業と連携した探究学習、部活動の整備など力を入れて学校の魅力化を図るとともに、都市部でも学校説明会を実施するなど、広報も強化。全国から受験者が集まるようになり、広島県の公立高校入試において22・23年度と2年連続で志願倍率が県内トップとなった。

#入学者を全国から募集

#地域や企業と連携した探究学習

学校概要

設立 1928（昭和3）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約40人
2022年度卒業生進路実績
国公立大は、金沢大、愛知教育大、香川大、愛媛大、琉球大、都留文科大、観音大、福知山公立大などに11人が合格。私立大は、上智大、大正大、大阪芸術大、広島工業大、広島修道大などに延べ20人が合格。短大・専門学校進学8人。就職5人。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。



校長
二川 一成
ふたかわ・かずなり
同校に赴任して2年目。



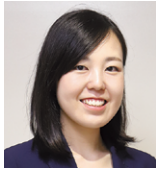
教頭
山西 豊
やまにし・ゆたか
同校に赴任して3年目。



進路指導主事
佐々木 陸
ささき・りく
同校に赴任して2年目。音楽科。



学校運営協議会委員
妹尾 暁
せのお・あきら
みらい株式会社代表取締役。



生徒寮「黎明館」舎監（*1）
高田 麻以
たかだ・まい
公益社団法人青年海外協力協会（J.O.C.A.）*2 職員。

変革の背景

全国募集を始めたものの、 県外受験者はゼロ

2町1村が合併して誕生した広島県安芸太田町は、人口約5,500人の、県内で人口が最も少ない自治体だ。同町唯一の高校、広島県立加計高校は約20年前、存続の危機にあった。元々進んでいた少子化に加えて、2003年に広島市内と同町を結ぶ鉄道路線の一部が廃線となった影響で、市内からの入学者が激減したからだ。二川一成校長は、同校の存続は町の課題でもあったと語る。

「地域から高校がなくなることは、病院がなくなるのと同じくらい深刻な事態です。たとえ地域の子どもの数が増えても、地域内に高校がなければ、高校進学時に町を出ていかなければならないからです」

同町は03年度に通学費の補助制度を設けたが、入学者は減り続け、1学年3学級だったのが、11年度には1学級になった。町で見かける高校生が減る中、町の人口の減少に

図1 加計高校と安芸太田町の変革の軌跡

年度	活動
1996	学校近隣の2町1村と、各教育長、PTA、同窓会らが「加計高校を育てる会」を発足
1997	地に射撃場（*3）がある特色を生かし、同校に県内初の射撃部を設置
2003	同校の最寄り駅があったJR可部線の一部区間が廃線。翌年、安芸太田町は、同校生徒への通学費の補助制度を開始
2011	同校の生徒が利用できる無償の公営塾を同町が設置
2014	町の予算で校内に射撃場を整備
2015	町の宿泊施設を改築して生徒寮を設置。入学者の全国募集を開始
2018	「地域みらい留学」（*4）に参画し、都市部での説明会を開始
2019	みらい株式会社と連携し、起業家精神の育成を目指す探究学習を開始
2022	全室個室、Wi-Fi完備などの新しい生徒寮「黎明館」を同町の予算で設置
2023	JOCA（*2）が黎明館の運営を開始

※学校資料を基に編集部で作成。

変革の一手①

地域と連携した探究学習で 起業家精神を育む

拍車がかかるのではないかと危機感を抱いた同町と同校は、協働で施策を講じた。まずは11年度に同町が無償の公営塾を開始。15年度には、宿泊施設を改築した生徒寮を設置し、県外から生徒を受け入れる特定校の指定を受け、入学者を全国から募集した。しかし、初年度の県外受験者はゼロだった。現実は厳しかったと、山西豊教頭は振り返る。

「制度や設備を整備するだけでは、受験者は集まりませんでした。寮に入っても本校で学びたいと思える魅力と、それを県外の中学生に知ってもらう必要がありました」

同校は、同町から人的・財政的支援を受けて、学校の魅力化に取り組んだ。最初に着手したのが部活動の特色化だ。町内にアジア大会の会場になった射撃場があることから設置された射撃部が全国大会で活躍できるよう、町の予算で校内に射撃場を整備し、各種ライフルもそろえた。学習面では、地域連携を主体とした探究学習のさらなる充実を図った。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

*1 寄宿舎で、寄宿している生徒・学生の生活指導や監督を担う。 *2 青年海外協力隊のOB・OG組織。海外で蓄積したスキルや経験を国内の国際交流事業や協力事業に生かし、地域住民と連携した地域創生事業に取り組む。英語表記が Japan Overseas Cooperative Association で、通称 JOCA。 *3 安芸太田町には、アジア大会や国体の会場にもなった「広島県つつがライフル射撃場」がある。 *4 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが運営する、中学生や高校1年生の国内留学を支援する事業。入学者を全国募集している高校を紹介する合同説明会やオンライン説明会などを実施している。

19年度に、地方創生のための人材育成を担うみらい株式会社と協働し、「起業家精神の育成」をテーマにした探究学習を開始した。同社の妹尾暁代表取締役は、そのねらいを次のように語る。

「高齢化が進む安芸太田町が持続可能な町となるためには、生徒が町の課題に目を向け、できれば卒業後も町に残り、課題に取り組むメインドを育むことが大切だと考え、起業家精神の育成を目標にしました」

生徒は1年次に地域理解を深めながら探究スキルを学んだ後、2・3年次は学年を超えてチームを組み、町の資源を生かして町をどう活性化するかについて考える(図2)。これまで、木工製品の製作・販売や英語の町案内の製作などを、地域の企業と連携して行った(写真)。

全学年から有志の生徒が集まり、自分たちでテーマを決めて活動する「ミライ探究プロジェクト」もっている。現在、医療関係者を応援するメディカルチーム、菊芋の商品化に取り組む菊芋チーム、淡水魚ホンモロコいの釣り体験ができる釣り堀カフェプロジェクトなどが活動中だ。

進路指導主事の佐々木陸先生は、次のように話す。

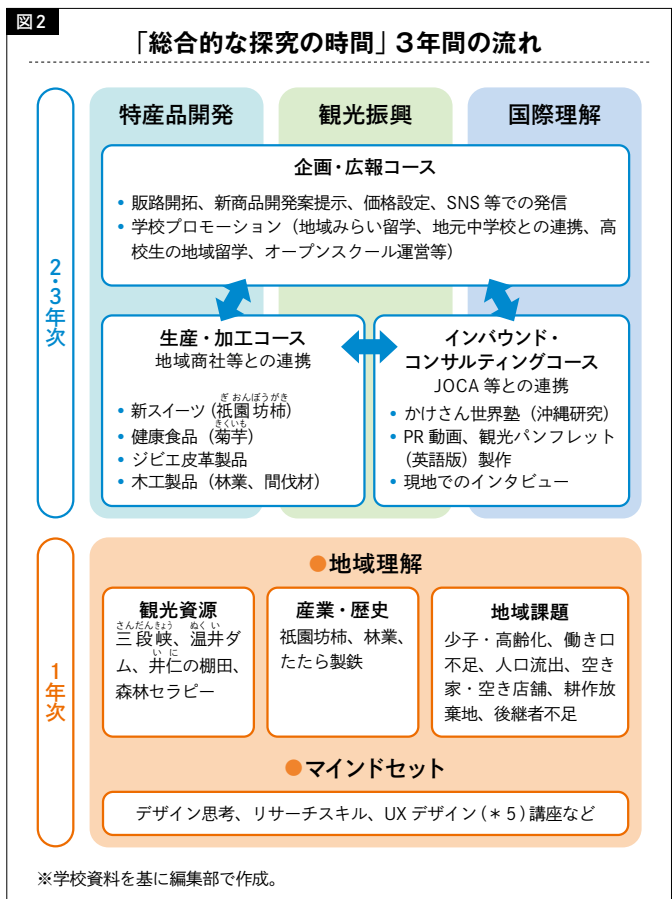
「病院で行われた祭りでは、ボランティアで運営に参加したメディカルチームの呼びかけで、菊芋チームと釣り堀カフェプロジェクトが共同で出店しました。どうしたら来場者が楽しめるかを生徒が自ら考え、病院スタッフに積極的に提案する姿は、本当に生き生きとしていました」

23年度には、同社と包括連携協定を締結。同社の社員が週3〜4日常駐し、生徒の活動を支援している。

都市部で学校説明会を実施。生徒が中学生に直接PR

広報活動の強化では、18年度に国内留学を支援する「地域みらい留学」に参画し、東京都で開催された説明会にブースを設けた。

「地方の小規模校が全国の中学生と直接話す機会を持てたのは大きな前進でした。本校のブースに1人でも多くの中学生に来てもらえるよう、会場の入り口に立ち、校名入りのポケットティッシュを入場者に手渡す活動もしました」(三川校長)



説明会には同校の教師のほかに、生徒や保護者も参加。生徒主体で活動する探究学習の面白さや、希望進路に沿った学習支援を公営塾で無償で受けられる安心感などを、当事者が直接、中学生とその保護者に伝えた。そうした努力が実り、高校で心機一転を図りたい生徒や、射撃部に入部したい生徒など、全国から受験者が集まるようになった。

「募集活動を通じて分かったのは、都市部を出て、地方で高校生活を送



写真 広島駅構内にある安芸太田町のアンテナショップで、生徒が特産品の販売活動や駅利用者へのアンケート調査を実施。調査の結果は商品開発や販売方法の工夫などに生かした。

* 5 UXは、User Experienceの略称で、顧客体験を意味する。UXデザインは、製品やサービスを通じたユーザーの体験のすべてをよりよくするためのデザインのこと。

りたいという中学生が一定数いることです。在校生が生き生きと高校生を送る様子や学校の魅力をしつかり伝えれば、中山間地域の小規模校も、中学生にとって選択肢の1つになるのだと実感しました(山西教頭)

変革の一手 ②

生徒の自律を促す視点で 生徒寮を運営

入学者の全国募集が軌道に乗った22年度、同町は約5億円を投じて地域の人材交流センターの機能を併せ持つ生徒寮「黎明館」を建設。23年度に寮の監督者となった公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)は、教育的視点を持って生徒に接するようになった。同法人職員で寮の舎監を務める高田麻以さんは、「こう説明する。「寮生が自律して生活できるようにするのが私たちの役割です。生活に不具合が生じた時、監督者が解決するのではなく、『どうすれば解決すると思う?』と、まず寮生に考えさせるようにしました」

例えば、寮生から「電子レンジが汚い」と声が上がると、以前は舎監が掃除をしていた。今は「どうすれば綺麗に使えるか」を寮生同士で話し合うよう、促している。

「自律した寮生活を送るようになってからは、仲のよさではなく、得意かどうかで役割分担をして探究学習に取り組む姿が見られるようになりました。寮生活で生徒同士の交流が活発化し、相互理解が深まったことが、探究学習にもよい影響を与えています」(妹尾さん)

変革の成果と展望

存続の危機を脱し、 学校が地域の応援団に

広島県の公立高校入試において、同校は22・23年度と2年連続で志願倍率が1位となった。入学者は北海道から沖縄まで全国に及び、寮生は全校生徒の4割を超えた。海外の日本人学校からも問い合わせが相次いでおり、実際に帰国後に入学した生徒もいる。また、射撃部や美術部な

どが全国大会で活躍し、海外の姉妹校3校との国際交流も活発だ。地域連携の面では、22年度に「コミュニケーション・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」で文部科学大臣表彰を受けた。そして、国公立大学と難関私立大学の合格者数は、以前の1割前後から3割前後にまで増加している。同校は県北を代表する高校の1つとなり、地元の入学者希望者も増えている。今後は、通学圏内の中学校からの入学者の増加を目指す。既に、

地元中学生や地元住民などを対象とした同校の活動報告会を生徒が企画・運営して実施し、探究学習や国際交流などをアピールした。

「探究学習やボランティア活動を通して、学校が町の応援団になりつつあると感じています。将来的には、本校の活動が町の人口増加につながるのが理想です。これからも、生徒と一緒に町の魅力を高める活動を模索し、地域活性化に貢献していきたいと考えています」(山西教頭)

ベネッセが見た軌跡

生徒、教師、地域がかかわり合い、ともに成長する学校へ

「県の公立高校入試で2年連続で志願倍率が1位になった加計高校。広島で一番魅力のある高校になった私たちの活動を皆さんに伝えたいです!」—地域の住民や中学生を対象に開かれた同校の活動報告会の冒頭の生徒会長の挨拶は、自信と誇りに満ちあふれていました。地元出身の生徒も、県外出身の生徒も、地域の課題に主体的に取り組む活動を通じて、地域の人たちに愛されていると感じていることが、自信と誇りにつながっていると得心しました。

加計高校では、教師・自治体・企業などの大人と生徒がかかわり合い、生徒・教師・地域が成長しています。その取り組みは、全国の中山間地域の学校のロールモデルとなるものでしょう。中四国地区の学校事業責任者として、中山間地域の成長の拠点となる学校の魅力化を、これからもますます応援していきます。

(株)ベネッセコーポレーション 中四国支社
学校事業責任者 劉 耕助



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

拡大が続く総合型選抜・学校推薦型選抜の実態と支援のポイント

一般選抜を上回るまでに拡大している総合型選抜・学校推薦型選抜。その実態と支援のポイントは何か。ベネッセ教育情報センターが大学を対象に行った、総合型選抜・学校推薦型選抜に関するアンケートの結果を基に解説する。

大学対象のアンケートの結果を基に、総合型選抜・学校推薦型選抜の実態を探る

高校現場に求められる2段階構えの支援体制

大学入試において、総合型選抜・学校推薦型選抜の拡大が続いている。2023年度大学入試では、総合型選抜・学校推薦型選抜による入学者の割合が51.4%に上った(図1)。設置区分別に見ると、私立大学の入学者の6割近くが総合型選抜・学校推薦型選抜で入学している。そして、国公立大学においてもその割合は2割を超えており、24年度入試では総合型選抜・学校推薦型選抜の募集枠をさらに拡大するなど、今後もそ

の傾向は続くと考えられる。

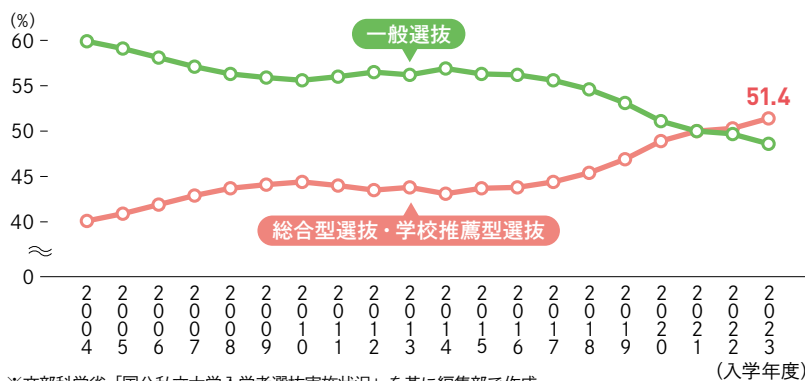
そのような状況を受け、多くの高校では、年内に合否が決まることが多い総合型選抜・学校推薦型選抜と、年明け以降に選抜が行われる一般選抜という、実施時期も実施形態も異なる2つの入試への対応が求められている。生徒の希望進路の実現のためには、拡大を続ける総合型選抜・学校推薦型選抜がどのようなねらいで実施され、生徒のどのような力を、どのような方法で測っているのかを理解した上で、校内に支援体制を構築することが欠かせない。

ベネッセコーポレーション教育情報

センターでは、全国の777大学を対象に総合型選抜・学校推薦型選抜に関するアンケートを実施し、総合型選抜・学校推薦型選抜の実施状況などについて、全体の76.1%の大学から回答を得た。次ページからは、アンケートの結果の要点とともに、25年度入試に向けて押さえておきたいポイントを解説する。

調査名 2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート
調査対象 国公立大学計777大学(国立大学85大学、公立大学96大学、私立大学596大学)
調査時期 2023年10月1日～12月15日
調査方法 郵送法による(回答方法はウェブでの回答またはFAXでの回答)
回答件数 計591件、全体回収率76.1%(国立大学64.7%、公立大学79.2%、私立大学77.2%)

図1 総合型選抜・学校推薦型選抜による入学者の割合の推移



※文部科学省「国公立大学入学者選抜実施状況」を基に編集部で作成。

総合型選抜・学校推薦型選抜の 実施目的と受験生に求めるもの

実施目的は意欲や適性の 高い生徒の確保

まず、総合型選抜・学校推薦型選抜それぞれの目的を各大学に尋ねた。「大学での学びに対し、意欲の高い生徒に入学してほしい」「大学での学びに対する適性の高い生徒に入学してほしい」「資質・能力の高い生徒に入学してほしい」「早期に入学者を確保したい」「高大接続の充実を図るため」「高校在学時の活動で実績がある生徒に入学してほしい」の6項目について、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5段階で、それぞれの実施目的として該当するものを聞いた。

総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれにおいても、「とてもあてはまる」という回答が最も多かったのは、「大学での学びに対し、意欲の高い生徒に入学してほしい」(総合型選抜89%、学校推薦型選抜85%)であり、次いで「大学での学

びに対する適性の高い生徒に入学してほしい」(同68%、同65%)だった。総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれも、実施の主目的が意欲や適性の高い生徒の確保であることが分かる。

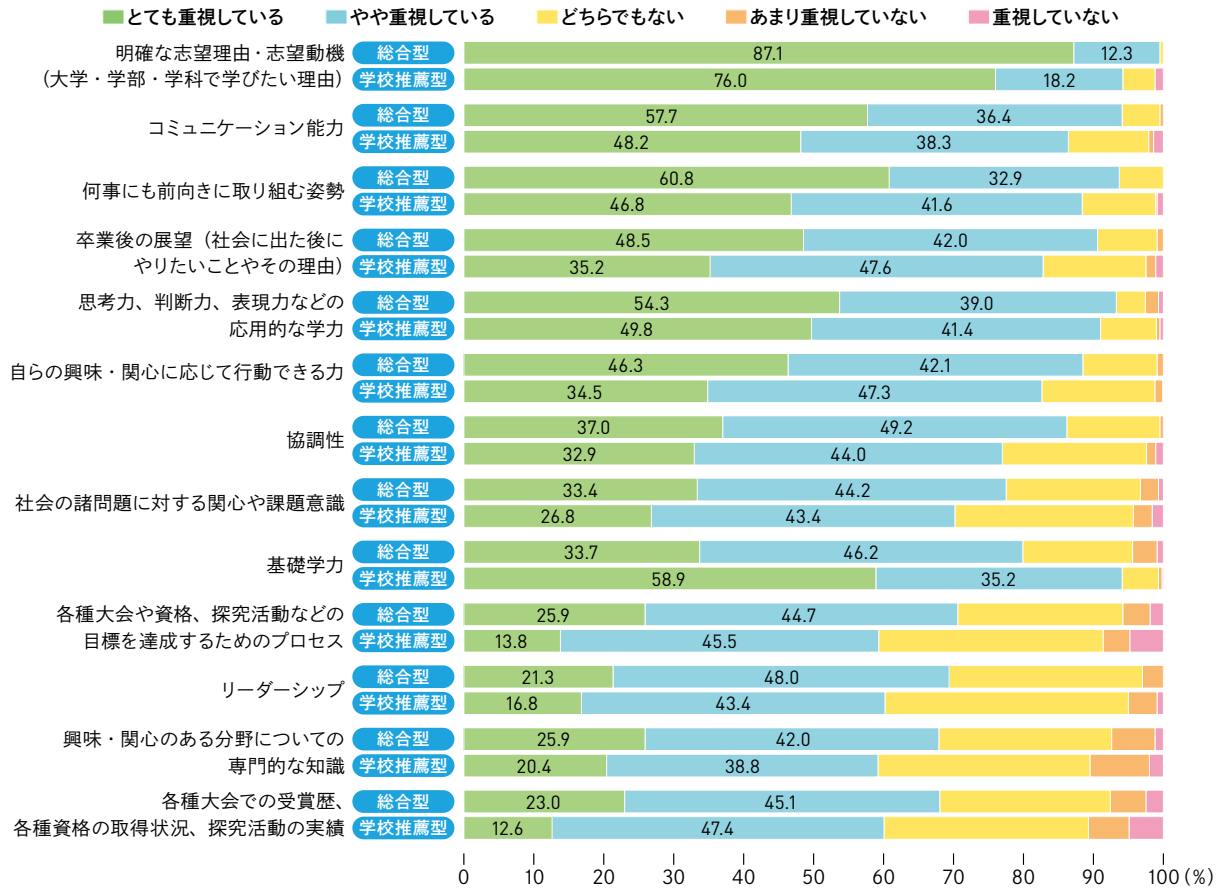
受験生に求めるのは 明確な志望理由・志望動機

総合型選抜・学校推薦型選抜において、受験生に何を求めているのかを尋ねた(図2)。

総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれにおいても受験生に求めるものとして「とても重視している」という回答が最も多かったのが、「明確な志望理由・志望動機」(総合型選抜約87%、学校推薦型選抜76%)だ。

総合型選抜で受験生に求めるものとして「明確な志望理由・志望動機」に続いたのは、「何事にも前向きに取り組む姿勢」(約61%)、「コミュニケーション能力」(約58%)だった。

図2 総合型選抜・学校推薦型選抜で受験生に求めるもの



※数値は無回答を除く全回答数に対する割合。
※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

学校推薦型選抜で受験生に求めるものとして「明確な志望理由・志望動機」に続いたのは、「基礎学力」(約59%)、「思考力、判断力、表現力などの応用的な学力」(約50%)だった。

総合型選抜と学校推薦型選抜の受験生に求めるものを詳しく比較すると、「明確な志望理由・志望動機」を「とても重視している」とする回答割合は、総合型選抜の方が11ポイント程度高かった。同様に、「何事にも前向きに取り組む姿勢」や「卒業後の展望(社会に出た後にやりたいことやその理由)」といった項目も、総合型選抜の方が「とても重視している」とする回答割合が高かった。一方、学校推薦型選抜では、「基礎学力」を「とても重視している」とする回答割合が総合型選抜に比べて顕著に高かった。

以上のように、総合型選抜と学校推薦型選抜のいずれも、大学での学びに対する意欲や適性の高い生徒を確保するため、「明確な志望理由・志望動機」を求めていることが分かった。さらに、総合型選抜においては前向きな姿勢やコミュニケーション能力が求められ、学校推薦型選抜においては基礎学力が特に重視されていることが分かった。

総合型選抜・学校推薦型選抜で重視する選抜方法

最も重視する選抜方法は「面接」

総合型選抜・学校推薦型選抜において最も重視する選抜方法は何かを尋ねたところ(図3)、いずれも「面接」を最も重視すると回答した大学が多かった。選抜の際に受験生に最も求めている「明確な志望理由・志望動機」を見るための最適な方法が面接であると、多くの大学が考えているものと思われる。「その他」を挙げる大学も多くあり、その内訳としては、プレゼンテーションやレポートが

目立った。学校推薦型選抜では「教科試験」「小論文」を重視している大学も多く、多様な方式で選抜が行われていることが分かった。

今回のアンケートでは、指定校推薦の基準についても尋ねた。51%の大学が「指定校推薦では基本的に不合格にすることはない」と回答したが、そのほかの大学は、面接や学力試験の結果、提出書類の内容によっては不合格にすることがあると回答した。特に「面接の結果によっては不合格にすることがある」と回答した大学は33%に上った。

総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した学生の特徴

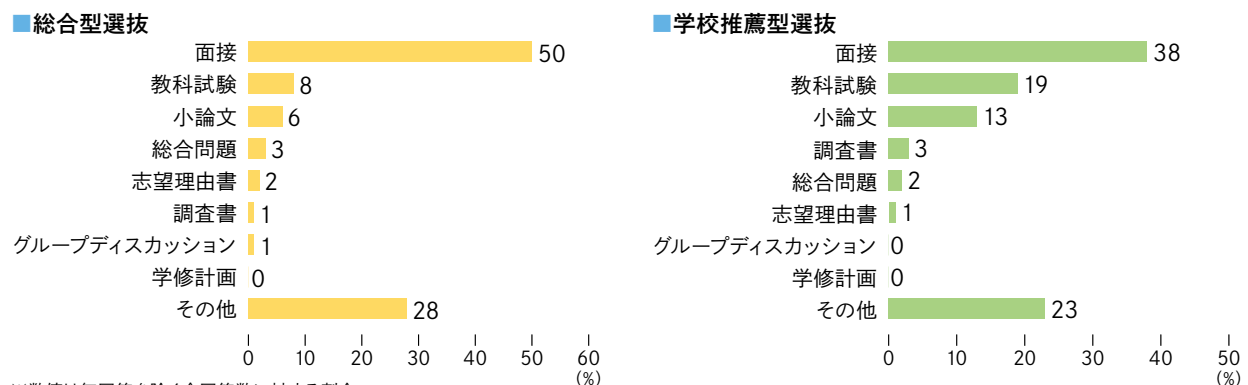
入学後の学びや諸活動に積極的に取り組む学生が多い

本アンケートでは、総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した学生の特徴につ

いても尋ねた(図4)。

総合型選抜で入学した学生の特徴について、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の回答割合の合計が最も高かったのは、「大学の授業以外の活動

図3 総合型選抜・学校推薦型選抜で最も重視する選抜方法



※数値は無回答を除く全回答数に対する割合。

※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

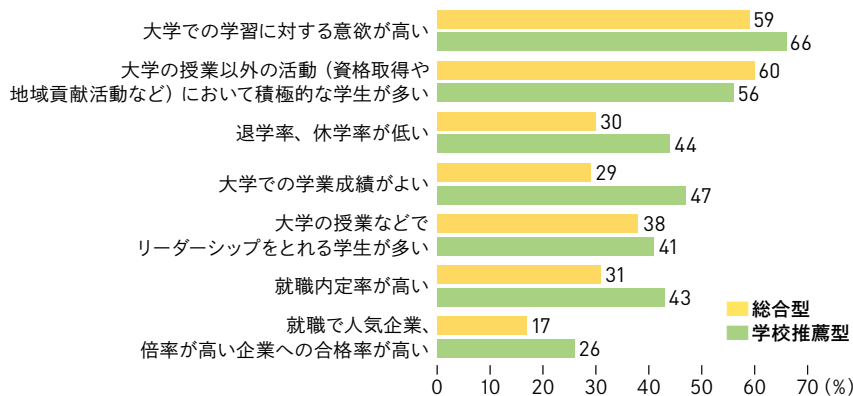
(資格取得や地域貢献活動など)において積極的な学生が多い」(60%)だった。次いで高かったのが「大学での学習に対する意欲が高い」(59%)だった。設置区分別に見ると、国立大学では「大学での学業成績がよい」(39%)が比較的高かった。

学校推薦型選抜で入学した学生の特徴について、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の回答割合の合計が最も高かったのは、「大学での学習に対する意欲が高い」(66%)だった。次いで高かったのが「大学の授業以外の活動(資格取得や地域貢献活動など)において積極的な学生が多い」(56%)だった。設置区分別に見ると、国立大学では「大学での学業成績がよい」(64%)が高く、公立大学では「大学の授業以外の活動(資格取得や地域貢献活動など)において積極的な学生が多い」(67%)が高かった。

以上のように、いずれの大学も意欲や適性の高い生徒を確保するために、総合型選抜・学校推薦型選抜では明確な志望理由・志望動機を持っているかどうかを主に面接で見えており、同選抜で入学した学生は、大学での学習はもちろん、それ以外の活動にも積極的に取り組んでいる

るようだ。そのような状況を考えると、今後も総合型選抜・学校推薦型選抜は重要な選抜方式として拡大すると思われるため、学校現場には、総合型選抜・学校推薦型選抜への組織的な対応がより求められると言えるのではないだろうか。

図4 総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した生徒の特徴



※数値は無回答を除く全回答数に対する「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の回答割合の和。
※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

解説まとめ

生徒の「マイ・ストーリー」構築の支援が求められる

明確な志望理由・志望動機が求められる総合型選抜・学校推薦型選抜では、その方法として面接が最も重視されている。そして面接では、自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望を「マイ・ストーリー」として語る事が重要であり、日頃の生徒との面談では、生徒の「マイ・ストーリー」を引き出すことが教師には求められる。

現在の学校現場では、特に総合型選抜・学校推薦型選抜において、出願準備や小論文・面接指導の負担感は小さくない。指導を効率化するとともに、各校に合った効果的な指導方法を模索しながら、生徒の「マイ・ストーリー」構築の支援に注力できる仕組みづくりが求められる。

1

大学は受験生に
明確な志望理由・
志望動機を
求めている

2

大学が
最も重視している
選抜方法は面接

3

高校に求められるのは
指導の効率化と生徒の
「マイ・ストーリー」
構築の支援



取材からの帰路、自宅最寄り駅で見かけた、電光掲示板にカメラを向ける晴れ着の団。そのレンズの先には、卒業を告ぐメッセージが流れていました。「未来に向かって出発進行!!」という機知に富んだ結びに心が温まるだけでなく、編集者魂に火が灯り、駅員室を訪ねました。

製作の経緯・過程について、以下、東武鉄道の回答。コロナ禍によって行事やイベントの休止が相次いでしまった生徒・学生の旅立ちにエールを送るため、正式名称「発車案内表示器」に「卒業おめでとう」のメッセージを流し始めたのは2年前。各駅の職員が考案した文案から一文を選りすぐり、すべての表示器設置駅で表示している、とのこと。

安全・定時運行に心血を注がれる中、プラスαの善意にただただ頭が下がりました。働き方改革やDXに取り組み、効率化に努める中でも、「真心」のこもった提案を両立したいと思いを新たにした年度末でした。(河野)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2024年6月号

6月17日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は年6回の発刊です。

Reader's VIEW

先生方からのご意見を紹介します

2024年2月号へのご意見

自己肯定感、主体性、教師のチームワークが3校の事例に共通

2月号の特集に掲載された宮城県岩ヶ崎高校、茨城県立並木中等教育学校、徳島県立小松島高校の3校の「事例」の記事に共通していたのは、「生徒の自己肯定感を高める」「取り組みに参加するかどうかを、生徒が主体的に決める（参加を強制される受け身のものではない）」ということであり、それらが学習意欲の向上の肝になっていたと思う。取り組みを進める上での先生方のチームワークが素晴らしく、生徒の成長に教師が共通してベクトルを向ける「熱い想い」があってこそそのチームワークだと感じた。

龍谷大学高大連携推進室 堀 浩司

「内容関与動機」につながる見通しを持って授業設計をしたい

教科指導の内容と同様に、あるいはそれ以上に、生徒の学習意欲をどのように引き出すかが課題だと毎年感じている。動機づけというと「内容関与動機」を考えがちだが、2月号の特集の「事例を通して考える」の記事で東京大学の市川伸一名誉教授が述べていたように、「内容分離動機」も併せて日々の成功体験をどう積み重ねるかということも、今後大切にしたいと思った。「内容分離動機」についても、最終的にはそれが「内容関与動機」につながっていく見通しを持って（もちろん、教師が予測していなかったり、できなかったりするようにつながり方もあると思うが）授業設計をしていきたい。

東京都・私立光塩女子学院 三瀬楓子

自分の言動を見直すきっかけになり、感謝

毎号楽しみにしている連載コーナーである「先生なら、どうしますか?」だが、2月号の記事も大変読み応えがあった。自分だったらどう対応したかと考えると、余計な言葉を発して、記事に書かれていたような進路実現にはつながらなかったのではないと思う。福井県・私立福井南高校の浅井佑記先生の指導力に感動するとともに、改めて自分の言動を見直すきっかけにもなったことに感謝している。

大阪府 匿名希望

よりよい学びのあり方を、意識的に模索することが大切

そもそも学びは、様々な要素が複合的に絡み合っているものであり、「教科横断」は、従来から各教師が個別に、無意識のうちに行ってきたことだと思う。その上で、2月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された、岡山県立岡山一宮高校の三尾健一先生と岡桂佑先生による英語と数学の教科横断型授業の記事を読み、教師間でこれまで以上に連携や情報交換をし、よりよい学びのあり方を意識的に模索していくことで、生徒の思考力や探究力等のさらなる向上につなげていくことが大切だと感じた。

兵庫県 匿名希望

校内研修で活用し、評価方法について議論を重ねたい

2月号の「そうだったのか! 学習評価」の記事では、評価の手法や3観点の評価の重みづけなど、記事にしてほしい内容が的確にまとめられていた。3観点による観点別学習状況の評価が導入されて3年目となる2024年度、研修主事として本記事を校内研修で活用し、改めて現在の評価方法について全教職員で振り返り、まずは各教科で慎重な議論を重ねたい。

岐阜県立加茂農林高校 渡邊強矢

次代を担う全国の若手教師が集まり、語り合う

若手教師・教育創造MTG^{ミーティング}

第2期

第3回ミーティングの開催レポートを
VIEWnext ONLINE でご覧いただけます

2020年4月にスタートした、若手教師による対話のコミュニティ「若手教師・教育創造 MTG」は、23年10月に、新たなメンバーから成る第2期をスタート。24年3月に行われた3回目のオンラインミーティングでは、メンバーの関心が高い3つのテーマについて、全国に発信していきたいメッセージを検討しました。

◎ミーティング概要

- ・実施日時 2024年3月16日(土)
15:00-17:00 (Zoom開催)

・プログラム

3つのテーマ「進路指導」「探究学習」「主体的・対話的で深い学び」のグループに分かれて、セッション1・2を行った。



▼セッション1での発表で使用したフォーマット(抜粋)

●進路、探究、主体的・対話的で深い学び (一談当テーマのみ残す)	
項目	内容
取り組みの概要	
取り組みの背景や課題点	
取り組みの工夫点	
取り組みの成果や生徒変化	
わかったこと 新たな課題	

セッション1	第2回ミーティングでの代表メンバーの実践発表を踏まえて、各メンバーがグループのテーマに関する自身の実践を、成果や課題と併せて発表した。
セッション2	第2回とセッション1での発表内容を踏まえて、各テーマについて全国に発信したいメッセージと、それに基づく実践のアイデアを、対話を通じて検討した。

●テーマ名△△△のメッセージor仮説or肝とは？	
●上記メッセージor仮説or肝の理由や根拠、または背景とは？	
●上記を検証するために今後必要な実践とは？	

▶セッション2での対話で使用したワークシート(抜粋)

3つのテーマについて、メンバーからどのようなメッセージが生まれたのか？

VIEWnext ONLINE 第3回ミーティングの開催レポートは、こちらからご覧ください！

URL <https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article27362/>





生徒と創る学びの情景

熱く、そして青臭くあれ

千葉県・銚子市立銚子高校 土屋智也先生



「経験を重ねてくると、生徒との距離が離れていく気がして……。新任の頃の熱さと青臭さを忘れたくないんです」と、土屋先生。教師にも生徒にも無難な選択をよとせず、可能性を広げる挑戦の大切さを伝える。沖縄の大学に進むか地元に残るか迷っていた生徒に、「若いうちに外に飛び出そう。沖縄はいいぞ」と背中を押した。翌年、「沖縄に来て本当によかった」と、その生徒から感謝の電話があった。

一方で、大事なことを伝える時ほど、あえて肩の力を抜く。「いきなり真面目な話をしても心に響かないですから、場を和ませようと思って」と、1月の進路集会で最初に話したのは、土屋家の雑煮の具。生徒にもどんな具だったか尋ねると、声をかけられた生徒は誰も雑煮を食べておらず、会場は笑いに包まれた。そのやり取りで生徒との距離がグッと縮まり、3年生に向けた進路の話を生徒は真剣に聞いていたという。

授業づくりでは初心を忘れず、今のベストを尽くそうと、毎年教材を作り変えている。現在は、授業の最後に生徒が書いた振り返りを踏まえて、理解度に応じた復習プリントを作り、次の授業で配布している。「なぜ、自分の苦手なところを知っているの?」と生徒が驚き、前向きに取り組む姿が、土屋先生にとっての大きな励みだ。

つちや・ともや 同校に赴任して9年目。2学年副主任。英語科。進路指導部。

千葉県・銚子市立銚子高校 2008（平成20）年設立／全日制／普通科・理数科／共学／1学年約270人／2022年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京学芸大、東京大などに53人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大などに延べ771人が合格。

※プロフィールは、2024年3月時点のものです。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル **0120-350455** [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17